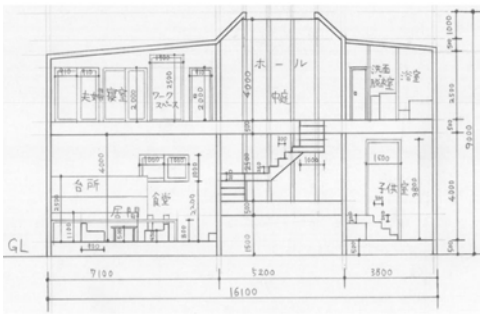
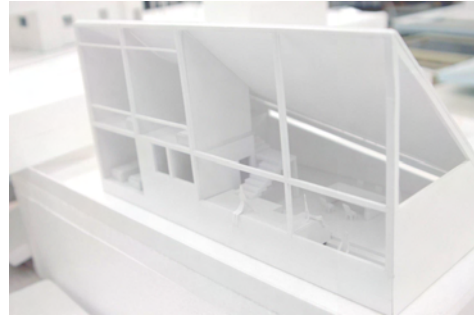
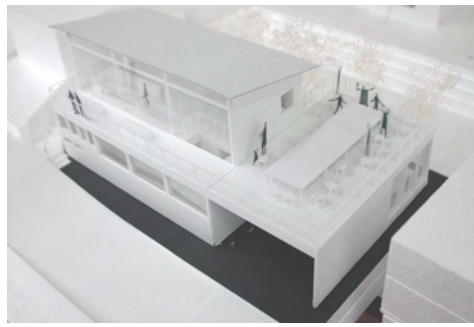


# 近畿大学工学部建築学科 作品集

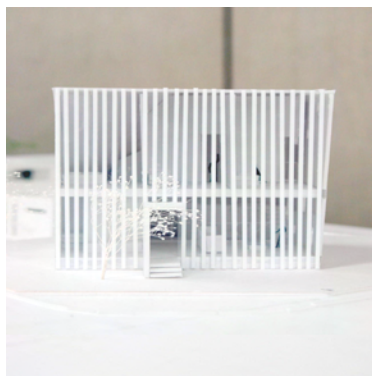
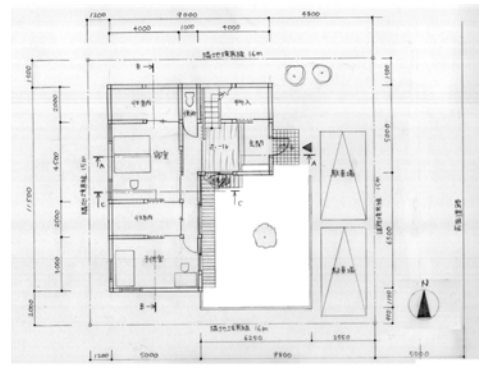
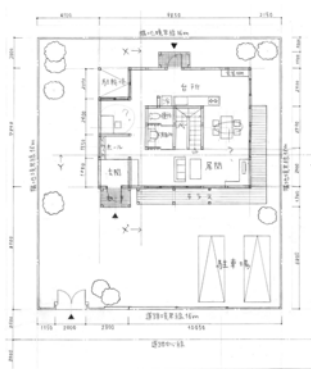
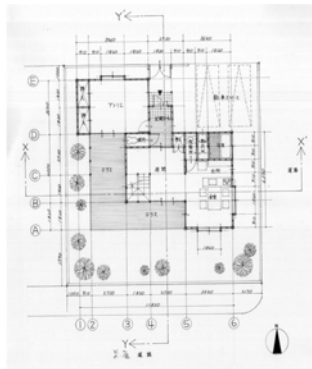
Department of Architecture, School of Engineering, Kinki University

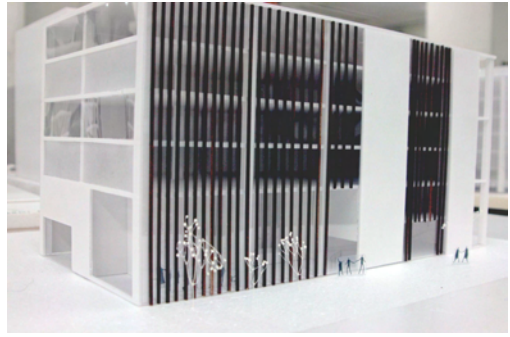
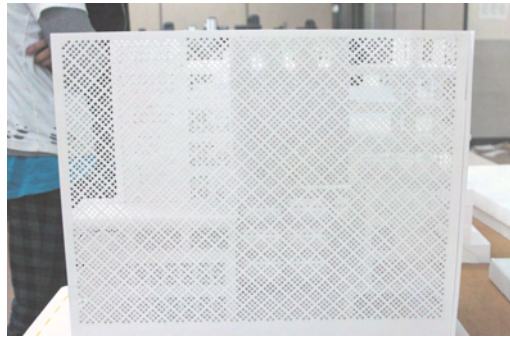
## CONTENTS

1	2年後期 建築設計演習 I	...	2
	01 「住宅」		
	02 「事務所ビル」		
2	3年前期 建築設計演習 II	...	4
	01 「20世紀美術館のための美術館」		
	02 「集合住宅」		
3	3年後期建築設計演習 III	...	8
	01 「小学校」		
	02 「複合施設」		
	03 「集中演習 with エジンバラ芸術大学 & タマサート大学」		
4	卒業計画・卒業制作	...	15
	01 mixture way ～宇品線跡地再考計画～	宇根明日香	
	02 施設という植物 ～広島市民球場を含む区画一体の再開発計画～	櫻井美由紀	
	03 奏出逢う人と住宅 ～どこからか聞こえてくる風景～	城納剛	
	04 「にわ」にひしめく暮らし ～住宅と店舗の新たな関係性～	関谷有希	
	05 かさなる空間 ～よりやさしく生地と触れ合うために～	松野藍	
	06 山と友に ～自然と融合する新しい集落の可能性～	柳川雄太	
	07 端からハシへ ～空間的動線計画による集中と分散～	山本恭平	
	08 A compound institution ～三菱重工跡地再利用計画～	榎国博	
	09 つなぐもの ～祭礼地域の日常の姿～	三木康嵩	
	10 URBAN FORUM ～駅前市場再考計画～	杉原一馬	
	11 ごみミュージアム	中内稔喜	
	12 Line into Rail	朝見文則	
	13 イノチアフレダス	河上拓矢	
	14 Relax by form & color	釘尾裕之	
	15 まち歩き空間	安東史	
	16 自然との共生 ～都市の中の自然～	原田聖	
	17 森の中を歩く人、木漏れ日の下をゆく電車	岩崎真達	
	18 天文館公園再考計画	川上裕司	
	19 Join ～新しい公共空間の創造～	西村知香	
	20 Artery of life ～狭さ故の心地良さと居場所が与えられる新たなスタイル～	原田敬大	
	21 離散から集合そして離散へ ～細分化された建築が魅せる「逆転空間」～	古田靖幸	
	22 移ろう風景、出逢いのはじまり ～異領域の境界における交換と交流～	三浦亮	
	23 散らばるおもちゃ 集まるこども ～こどもたちの新しい放課後の過ごし方～	宮脇麻容	
5	修士設計	...	39
	01 都市の crack	泉秀紀	
	02 継起空間体の所作	小谷征史	
	03 見えかくれする情景	佐々木智子	
	04 線の形態	田仲由佳里	
	05 都市における新たな文化発信の場としてのモノリス	橋本雅尊	
	06 日没閉館	吉田哲也	



## 将来の自邸

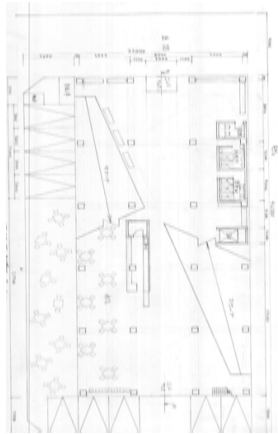




---

## 事務所ビル

---



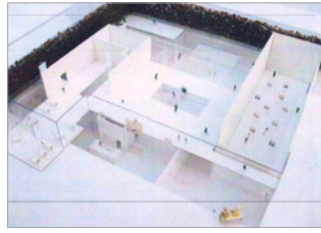
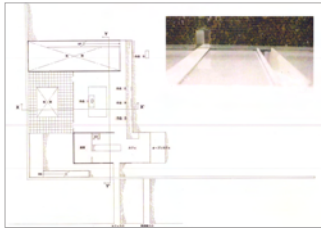


## 20 世紀美術のための美術館

特別講師 建築家 中村拓志先生



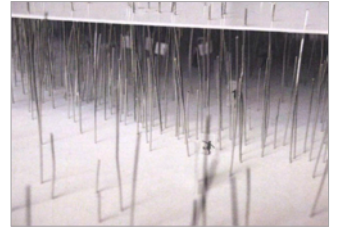
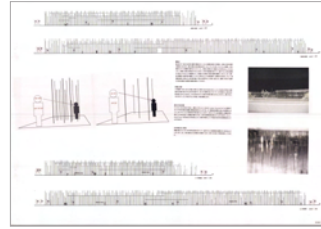
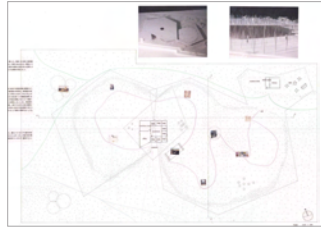




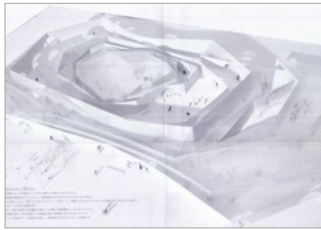
MATSUOKA Hidetoshi



TANIDA Tomoyuki



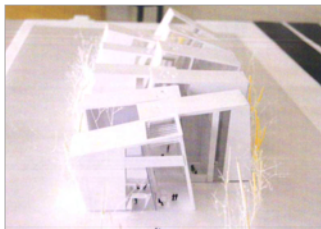
TAKAHASHI Mayumi



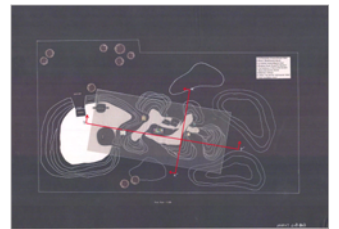
SASAKI Nozomu



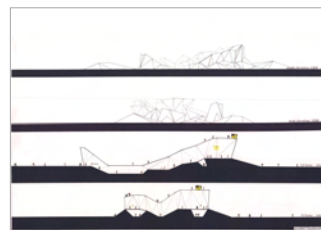
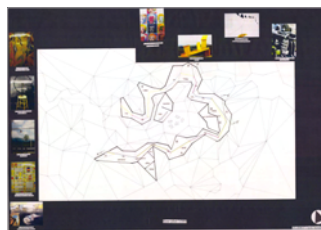
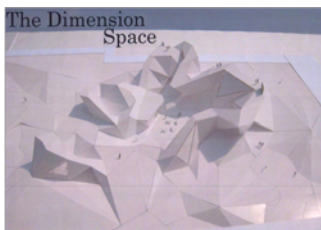
KITADA Hisayoshi



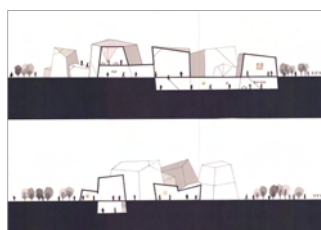
UEDA Hiropki



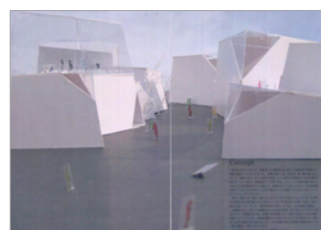
YAMAMOTO Hiroko



HIRAKAWA Yuji



OKAMOTO Maki

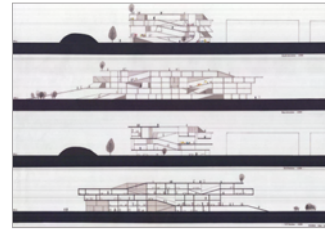
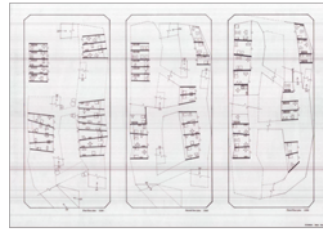


MASUDA Shin

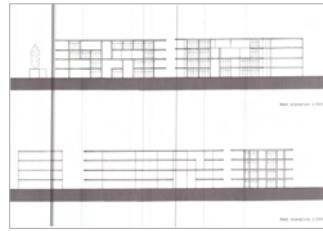
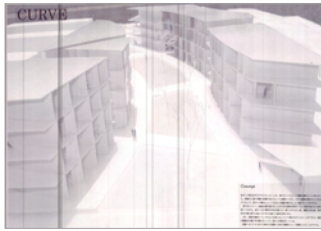
## 集合住宅

特別講師 建築家 石上純也先生

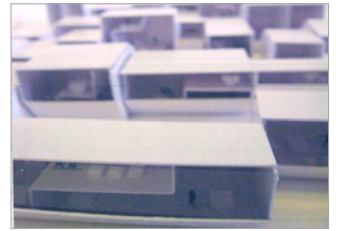




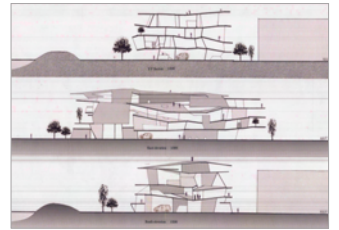
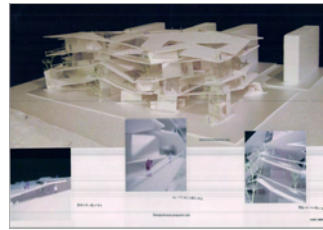
OKAMOTO Maki



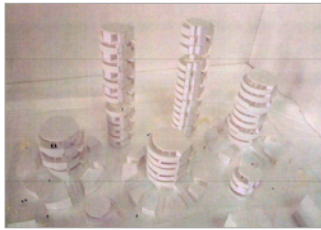
NARIMATSU Hitoshi



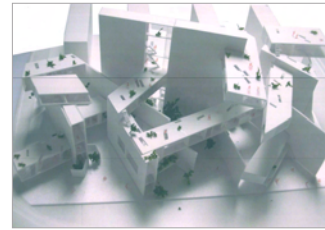
ONOE Saeko



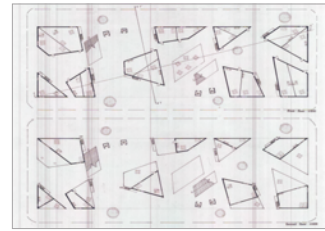
MATSUDA Naoko



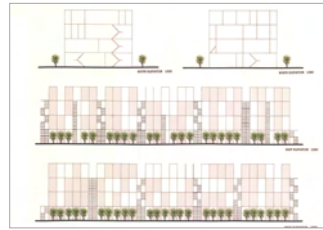
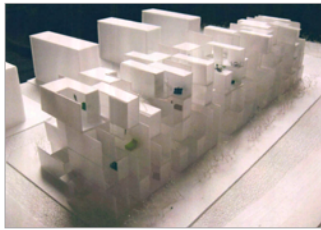
ANDO Miyuki



TAKAHASHI Mayumi



SHIMUZU Takeyasu



OHOKA Midori



UEDA Hiroki



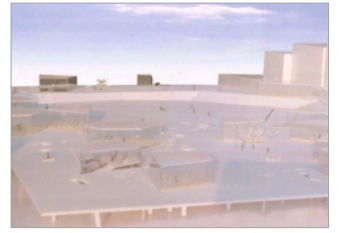
## 小学校

特別講師 建築家 五十嵐淳先生





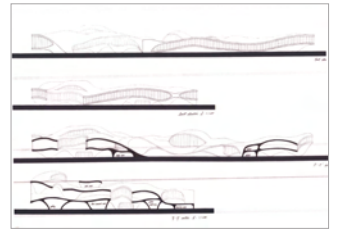
HIRAKAWA Yuji



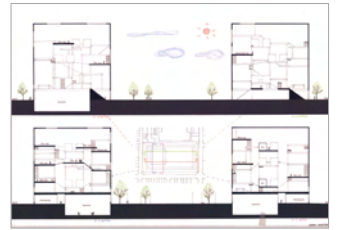
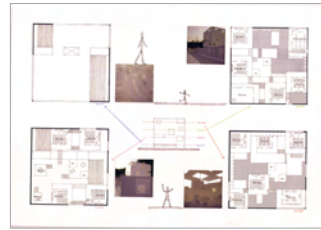
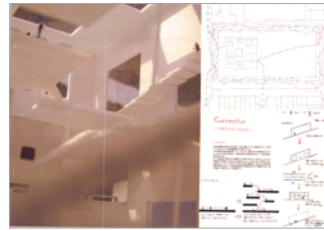
YAMAMOTO Hiroko



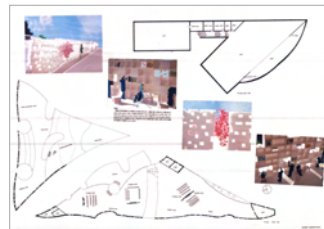
UCHIYAMA Yuya



NAKATA Yosuke



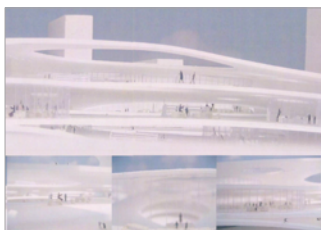
SHIMUZU Takeyasu



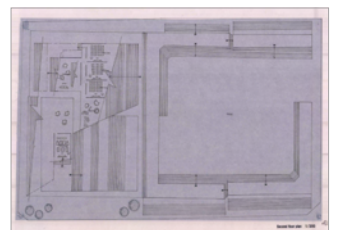
TAKAHASHI Mayumi



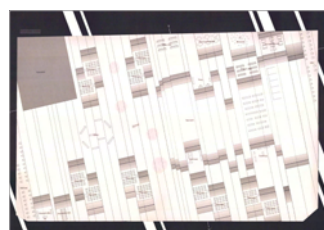
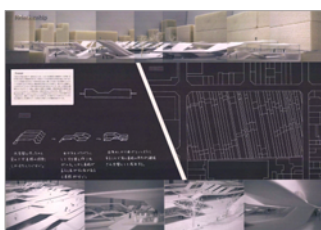
HIRAMACHI Yoshie



SASAKI Nozomu



MIYAMOTO Megumi



MASUDA Shin



MURAKAMI Kyoko

## 複合施設

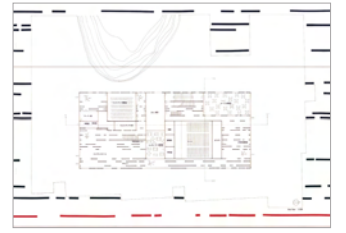
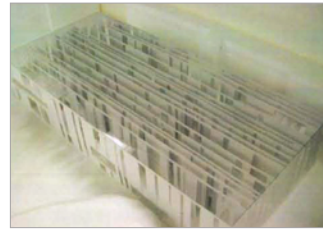
特別講師 建築家 今村雅樹先生



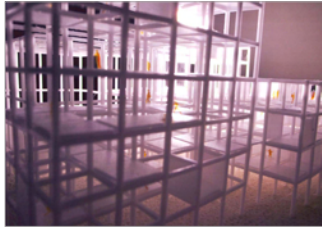




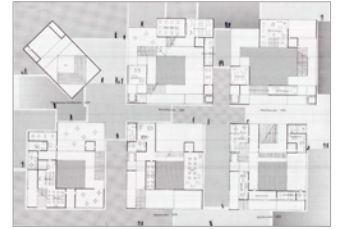
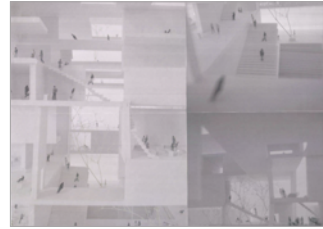
KUROMARU Oriie



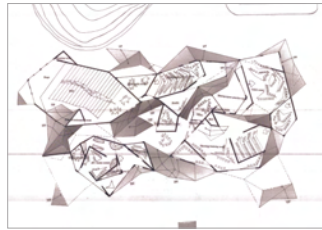
UEDA Hiroki



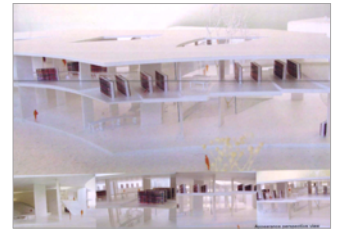
KATAYAMA Daisuke



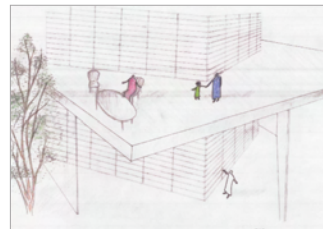
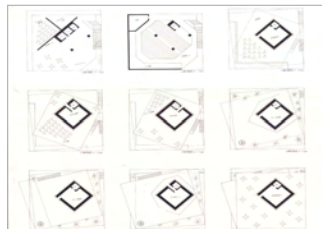
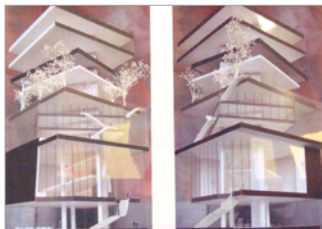
MATSUDA Naoko



HIRAMACHI Yoshie



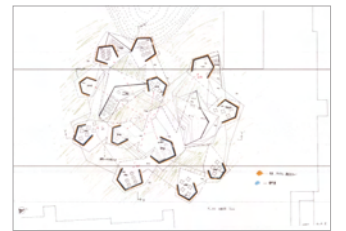
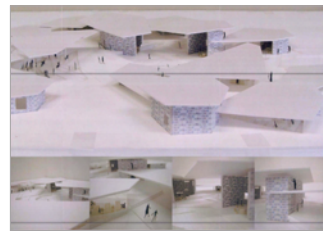
YASUDA Hiroko



NAKATA Yosuke



ANDO Miyuki



SASAKI Nozomu

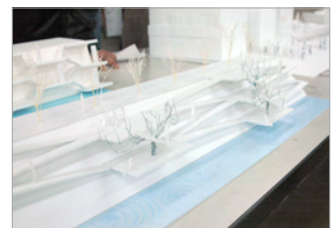


SYOJI Takeshi

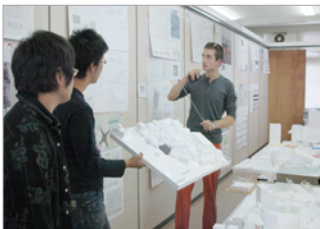


SHIMIZU Takeyasu

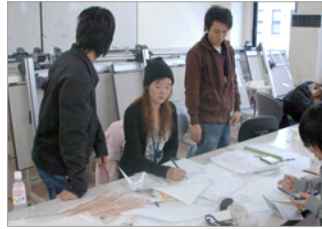
集中演習 with エジンバラ芸術大学&タマサート大学











---

卒業計画・卒業制作

---



# 01. mixture way ～宇品線跡地再考計画～

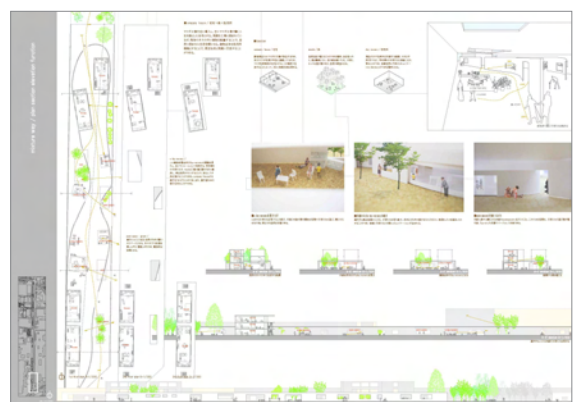
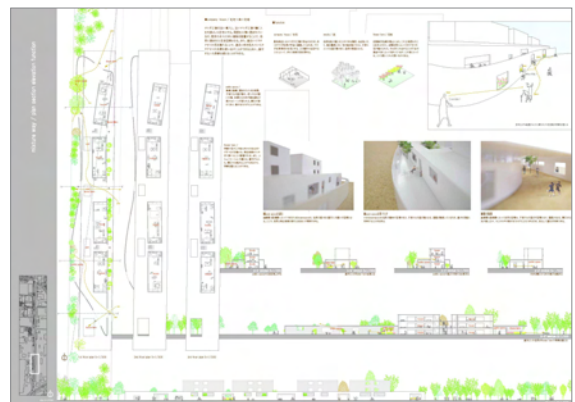
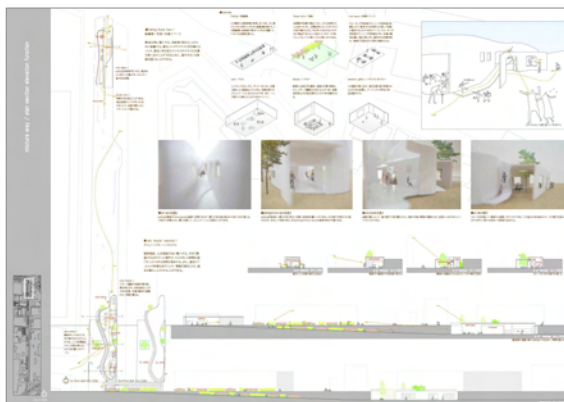
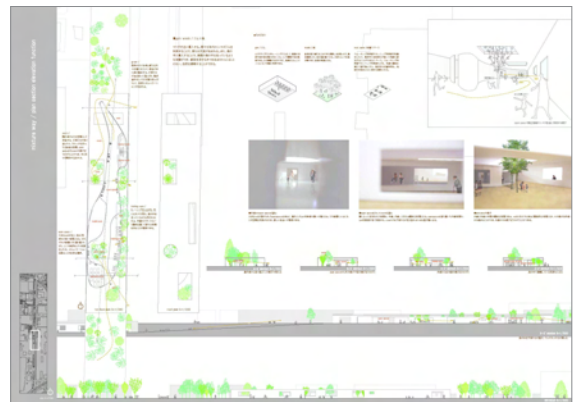
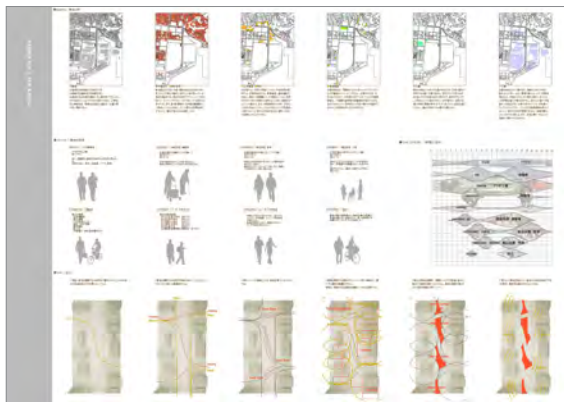
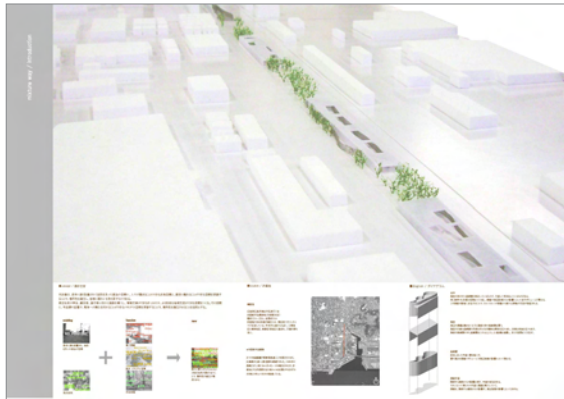
工学会賞 2 席

宇根 明日香  
UNE Asuka

建築意匠研究室

本計画は、長年に渡り放置されて目的を失った都会の空間に、人々が集まることのできる共有空間と、歴史に触れることができる空間を併設することで、場所性を確立し、地域に賑わいを取り戻すものである。周辺住民や学生、観光客、通行客に向けた

施設を導入し、情報交換ができるきっかけや、より活発な地域交流ができる空間をつくる。その空間に、宇品線の記憶や、戦争への関心を向けることができるメモリアル空間を併設することで、場所性を確立させることを目的とする。







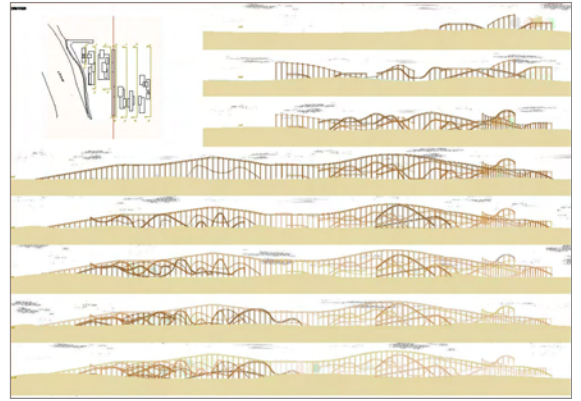
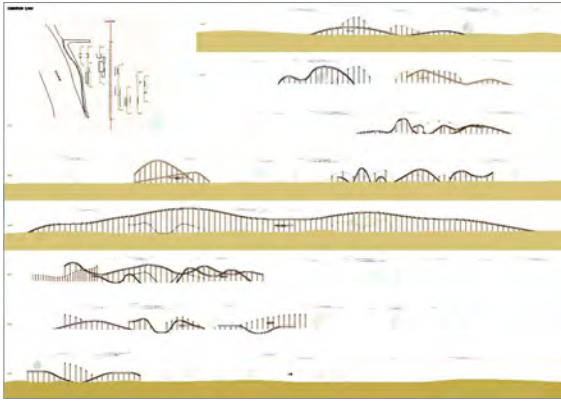
櫻井 美由紀  
SAKURAI Miyuki

建築意匠研究室

## 02. 施設という植物 ~広島市民球場を含む区画一体の再開発計画~

主機能を失ったことで空洞化が危惧されている、機能の集積する地域において、今ある機能を生かし、魅せるということから生まれる可能性を考える。本計画は新球場の建設に伴い、一つの役割を終える広島市民球場と、球場の存在によって隠れていた

周辺建築を含む、機能の集積している区画一体に、平和を訴える複合型公園施設を提案する。世代を超えたたくさんの人の集まりが壊滅状態から復興した広島の新たな平和を発信する”人を含む建築”となることを期待する。









関谷 有希  
SEKIYA Yuki

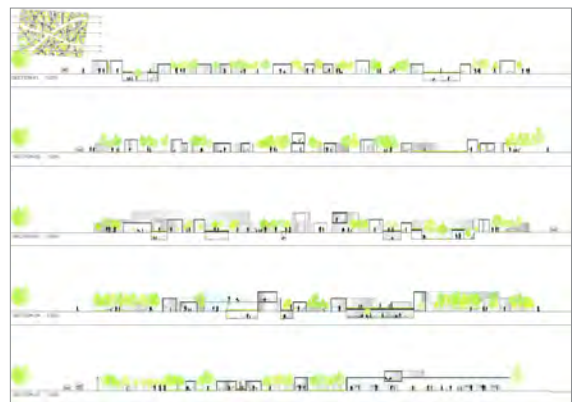
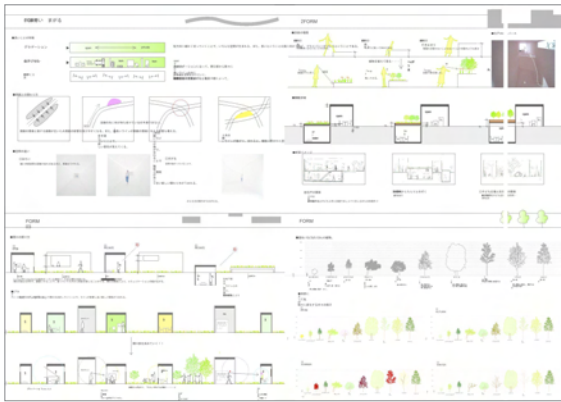
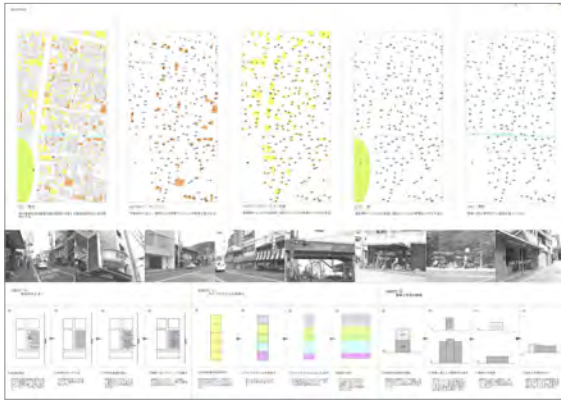
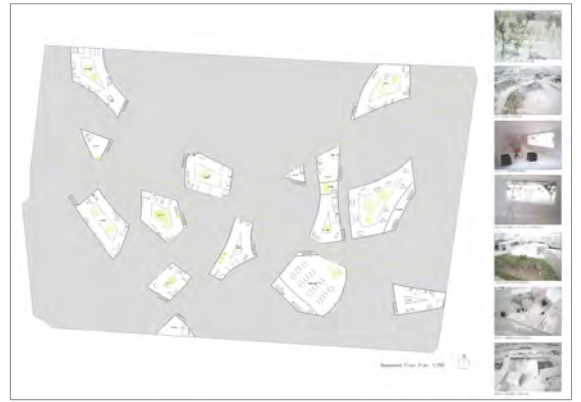
建築意匠研究室

### 04. 「にわ」にひしめく暮らし ～住宅と店舗の新たな関係性～

日本建築学会中国支部長賞

従来、人々の暮らしは商業と密接な関わりをもっていた。しかし都市において、人々のライフスタイルが多種多様化するにつれて、その関わりは薄れ、消えつつある。これからの商業は様々なライフスタイルと共に存在し、もっと身近で自由であるべきだ

と考える。本計画は、ライン同士がつくり出す距離感の中で、人々が生活することで、生活のリズムの中に店舗という機能が入り込み、新たな暮らし方が行われることを目的とした、都市における住宅と店舗の新しい関わり方の提案である。







# 05. かさなる空間 ～よりやさしく生地と触れ合うために～

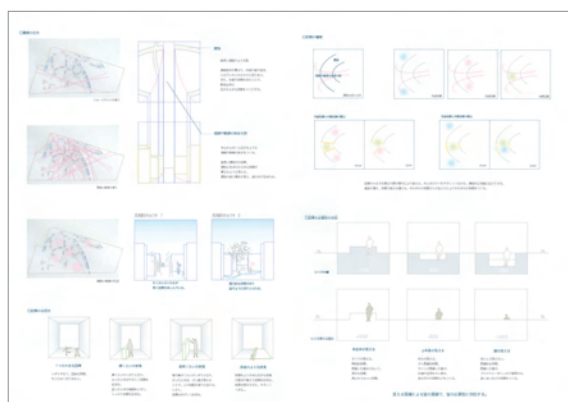
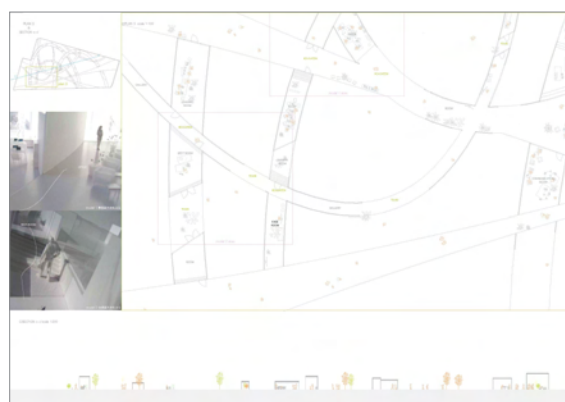
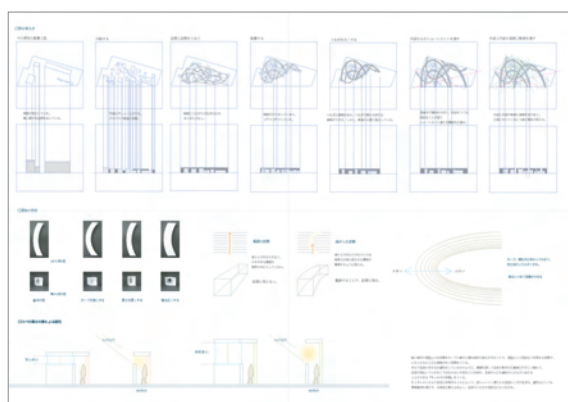
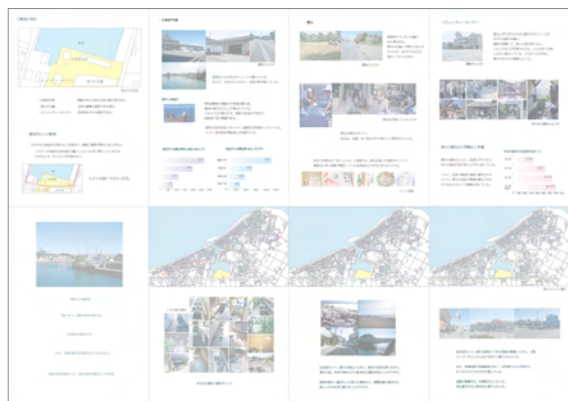
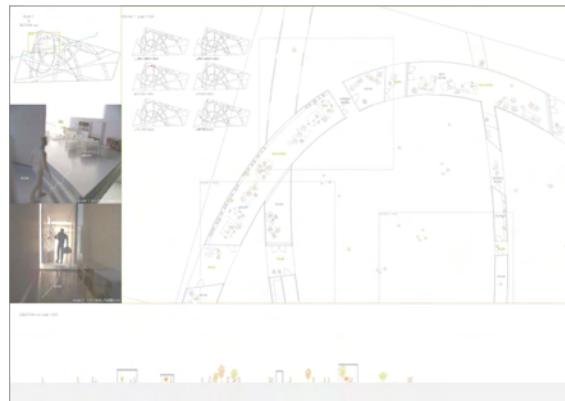
工学会賞 1 席

松野 藍  
MATSUNO Ai  
建築意匠研究室

細い筒状の通路のような空間をカーブと高さ  
と幅を微妙に変化させることで、通路と  
いう目的なく利用する空間で、いろいろ  
なところに視線がゆく空間をつくりだす。

それは、まるで生地のまちなか観光をし  
ているかのように、建築を通して生地の恵

まれた資源にやさしく触れて、生地の保  
全していかななくてはならない大切なこ  
とは何かを、生地の人にも観光の人にも伝  
えることのできる『きっかけの空間』と  
なる。それが生地の人たちの活性化につ  
ながることを期待する。



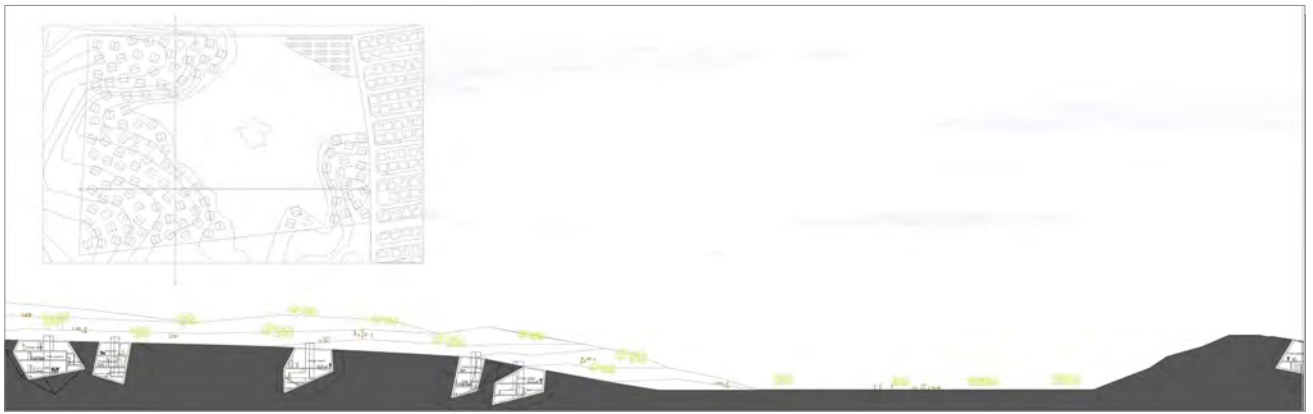
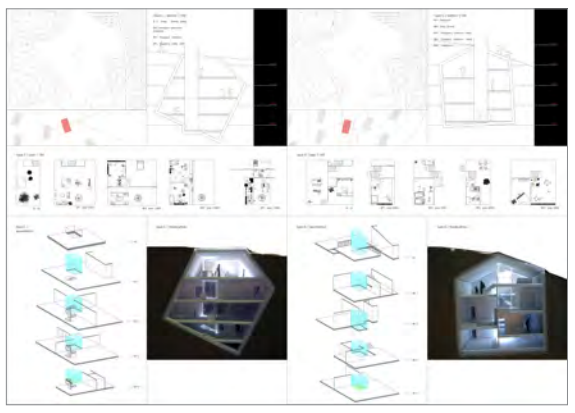
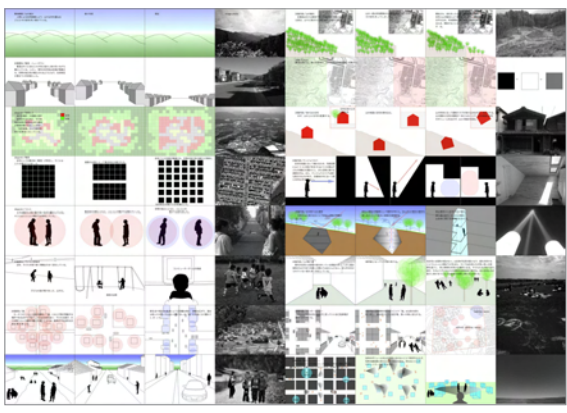
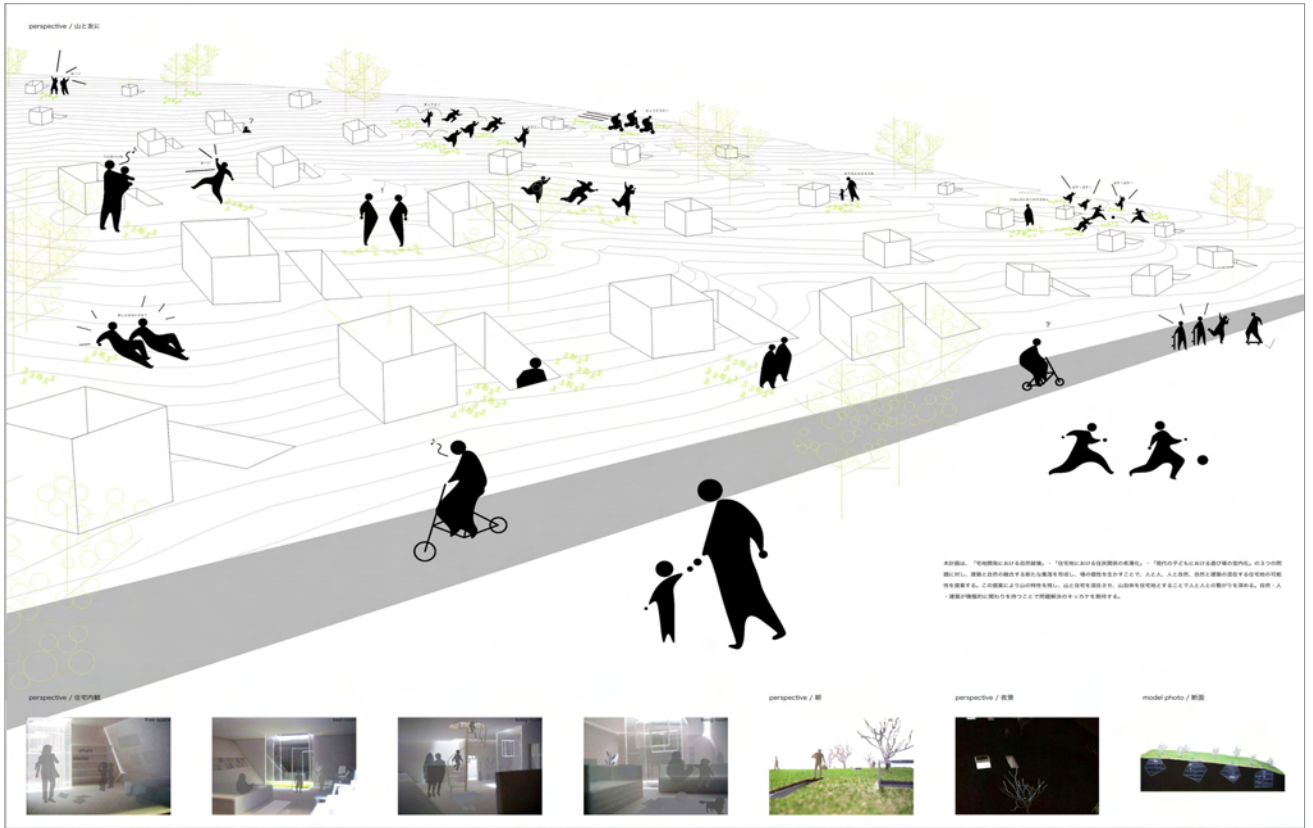


## 06. 山と友に～自然と融合する新しい集落の可能性～

柳川 雄太  
YANAGAWA Yuta  
建築意匠研究室

本計画は、「宅地開発における自然破壊」・「住宅地における住民関係の希薄化」・「現代の子供における遊び場の室内化」の3つの問題に対し、建築と自然の融合する新たな集落を形成し、場の個性を生かすことで、人と人、人と自然、自然と建築の混在する

住宅地の可能性を提案するものであり、山の特性を残し、山と住宅を混在させ、山自身を住宅地とすることで、人と人との繋がりを深めると共に、自然・人・建築が積極的に関わりを持つことで問題解決のキッカケとなることを期待する。





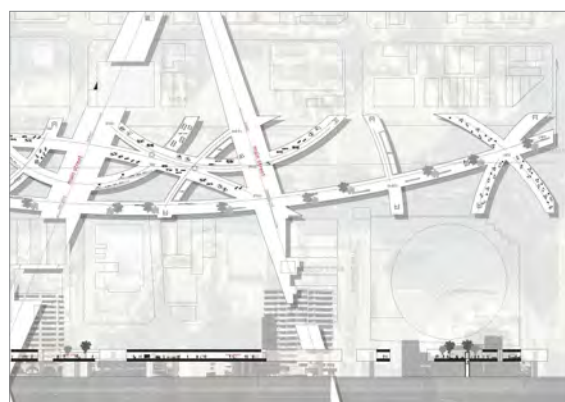
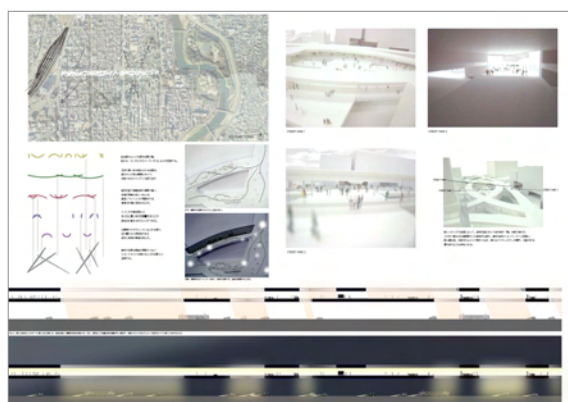
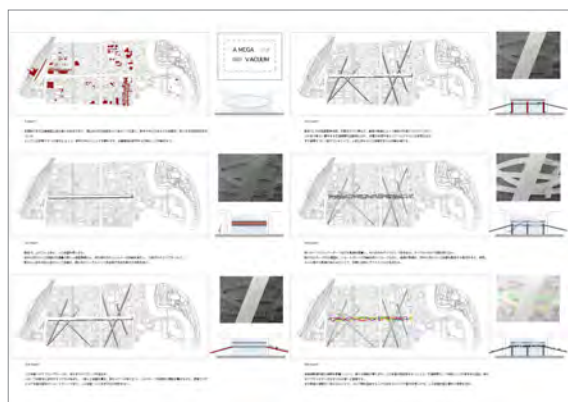
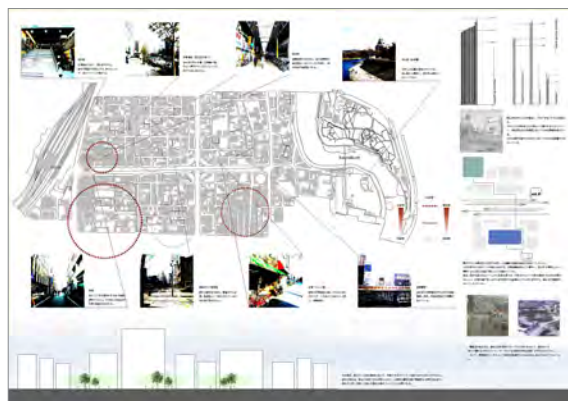


山本 恭平  
YAMAMOTO Kyohei  
建築意匠研究室

## 07. 端からハシへ ～空間的動線計画による集中と分散～

都市の中心を貫く車道は、歩行者にとって単なる「壁」でしかない。その空間が、歩行者のための空間に変貌したとしたら、歩行者に「壁」は取り除かれ人の流れは高速化し、都市中心は「壁」としてではなく本来の機能を全うするのではないのか。本

計画は、都市中心部にある主要道路の重要性と、道路上空に広がる広大な空白に着目し、その空白に新たなエリアとなる「橋」を挿入することにより、中心部が都市の顔となり、都市内部のつながりを強めるきっかけを提案するものである。





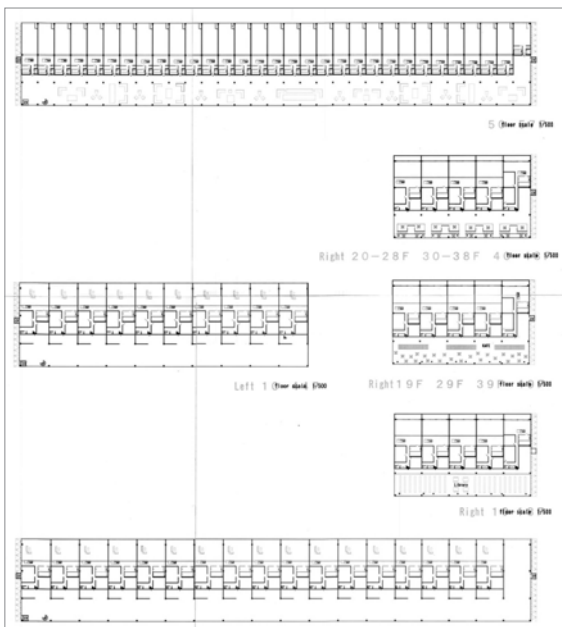


榎 国博  
SAKAKI Kunihiro  
建築計画研究室

## 08. A compound institution ～三菱重工跡地再利用計画～

三菱重工業安佐南区祇園工場が閉鎖され、新たに大型ショッピングセンター（SC）が計画されている。しかしそれは、近隣の中規模SCや多くの商店との競争が過熱を意味している。また、周辺には高速道路からそれほど遠くないため、交通量が増大し、

より渋滞を引き起こすことが考えられる。本計画は、計画中である大型SCの進出もしくは、地域の安全確保あるいは、地域の差異性を重視した計画に変更を迫る内容の空間を提案するものである。







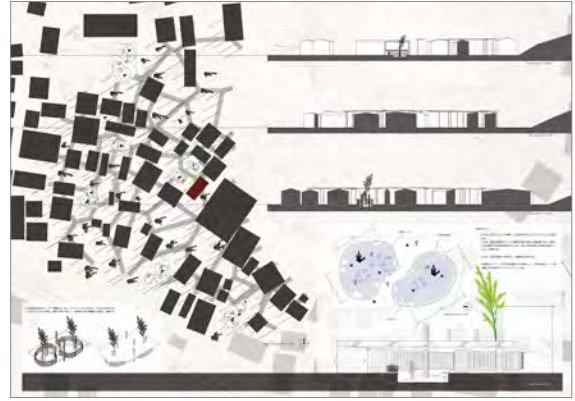
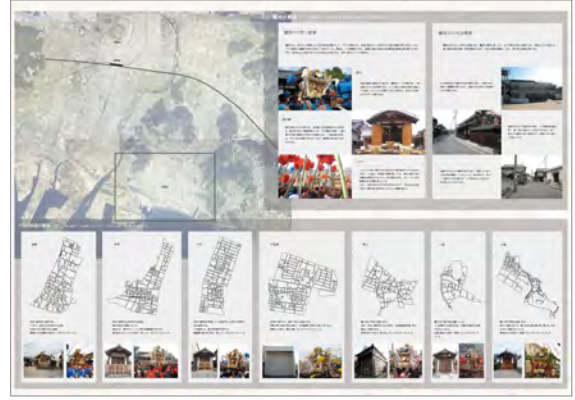
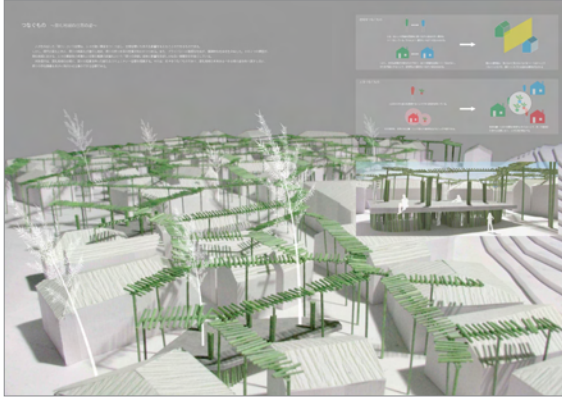
## 09. つなぐもの ～祭礼地域の日常の姿～

三木 康高  
MIKI Yasutaka

環境設計研究室

古くから人々が生み出してきた「祭り」の性質が、時代の変化と共に失われ始め、祭礼地域における人々の関係性が希薄化し、日常の風景が寂莫化している地域において、日常の中で人と人をつなぐキッカケとなる何かが必要であると考え。本計画

は、祭礼地域に存在する住宅たちの敷地境界線を再定義し、祭りで使用されたシデ竹により曖昧に表現することで、人々のよりアクティブな交流の生まれる地域へ、そして、祭りという歴史・文化を未来につなぐキッカケを与えるものである。





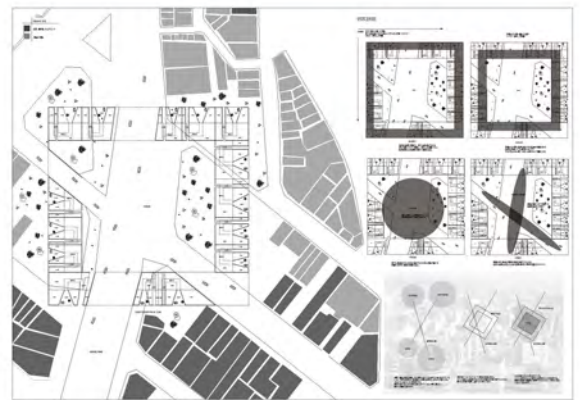
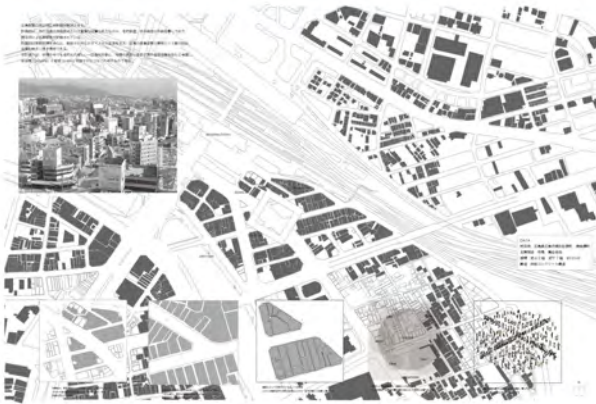
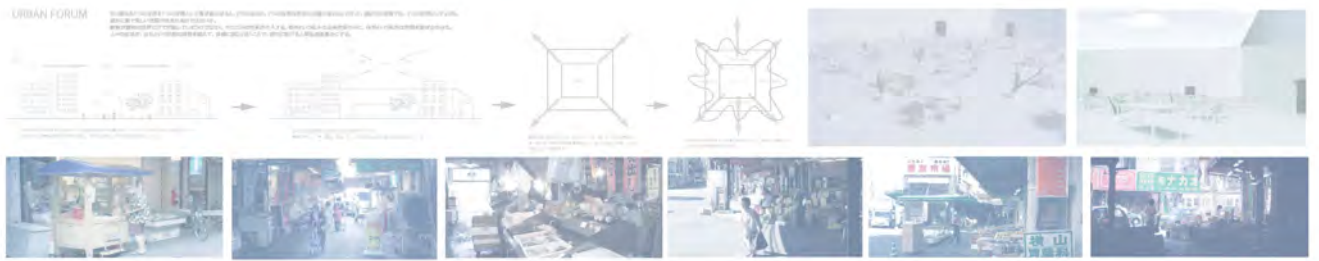


杉原 一馬  
SUGIHARA Kazuma  
環境設計研究室

## 10. URBAN FORUM ～駅前市場再考計画～

本計画は広島駅南口を対象地とし、市場の店舗と住宅を混成した集合住宅を計画する。駅前の道路や街路を建物内部に通すロの字型のプランによって、市民の交流の場としての広場が生まれ地域の祭事などにも活用される。また、店舗と住空間を通り

庭でつなぎ、住宅と市場という公私の空間を緩やかにつなぐ空間を設計した。住居と市場という初源的な生活空間が密接につながり、衰退する駅前に活気や賑わいを生み出すことを期待する。





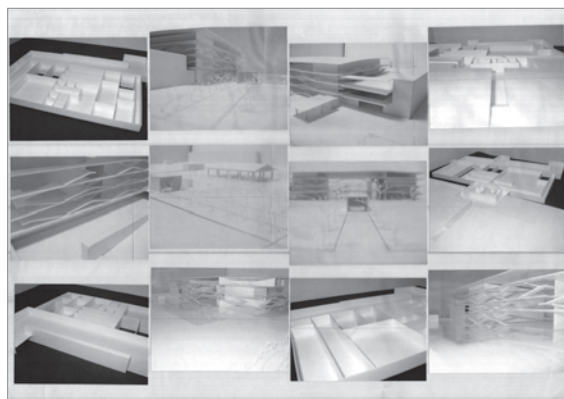
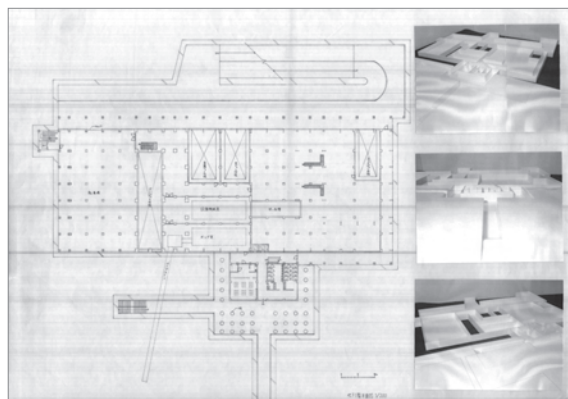
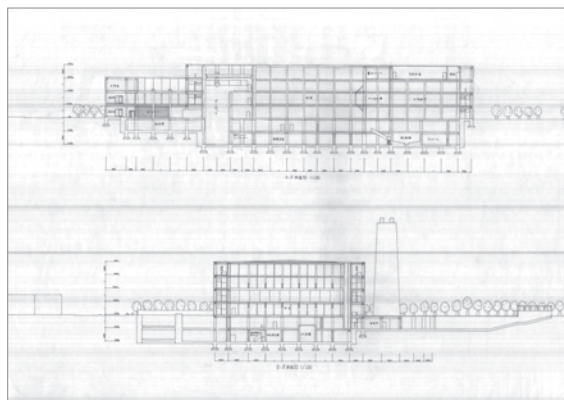
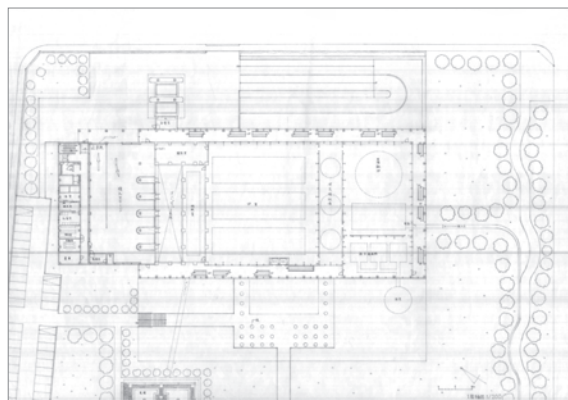
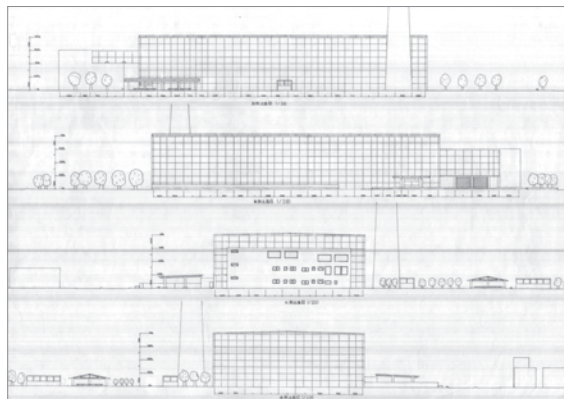
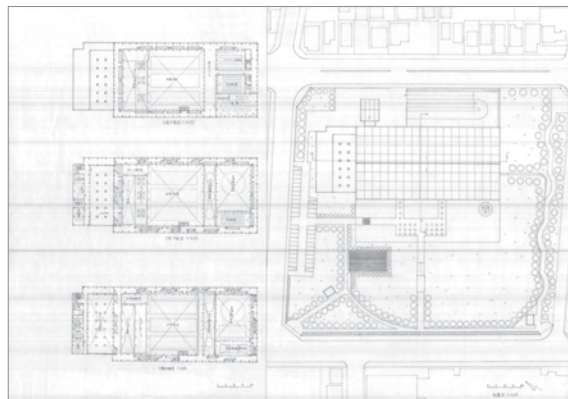
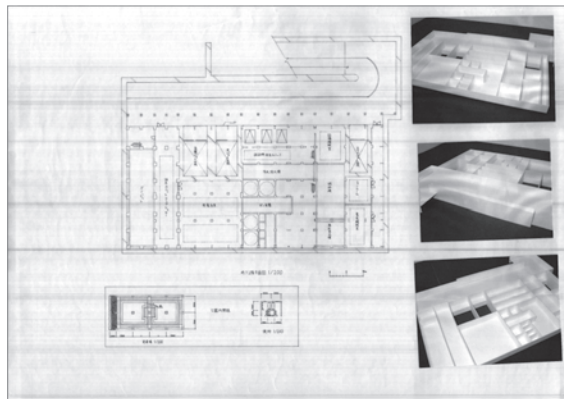
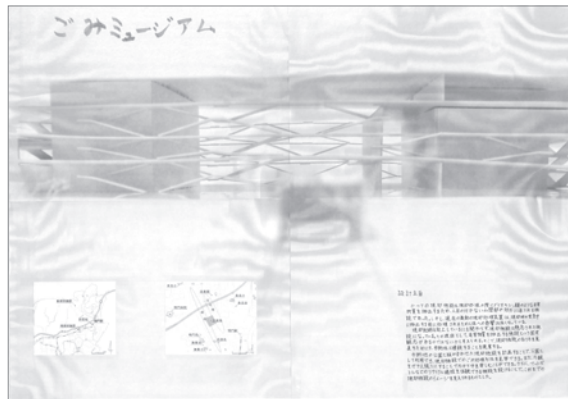


# 11. ごみミュージアム

中内 稔喜  
NAKAUCHI Toshiki  
環境設計研究室

かつての焼却施設は、有害物質を排出するため、郊外に造られる施設であった。しかし、最新の焼却処理は、空気中へ排出前に処理され人体への影響は低い。それにも関わらず、焼却施設は懸念されている。その理由として、有害物質を排出するという

固定観念があると考えられる。そこで、焼却施設のあり方を見直すために、市街地の公園に建設し、日常的な公園と社会的な焼却施設を組合せさせることで、市街地でも受け入れられることを期待する。



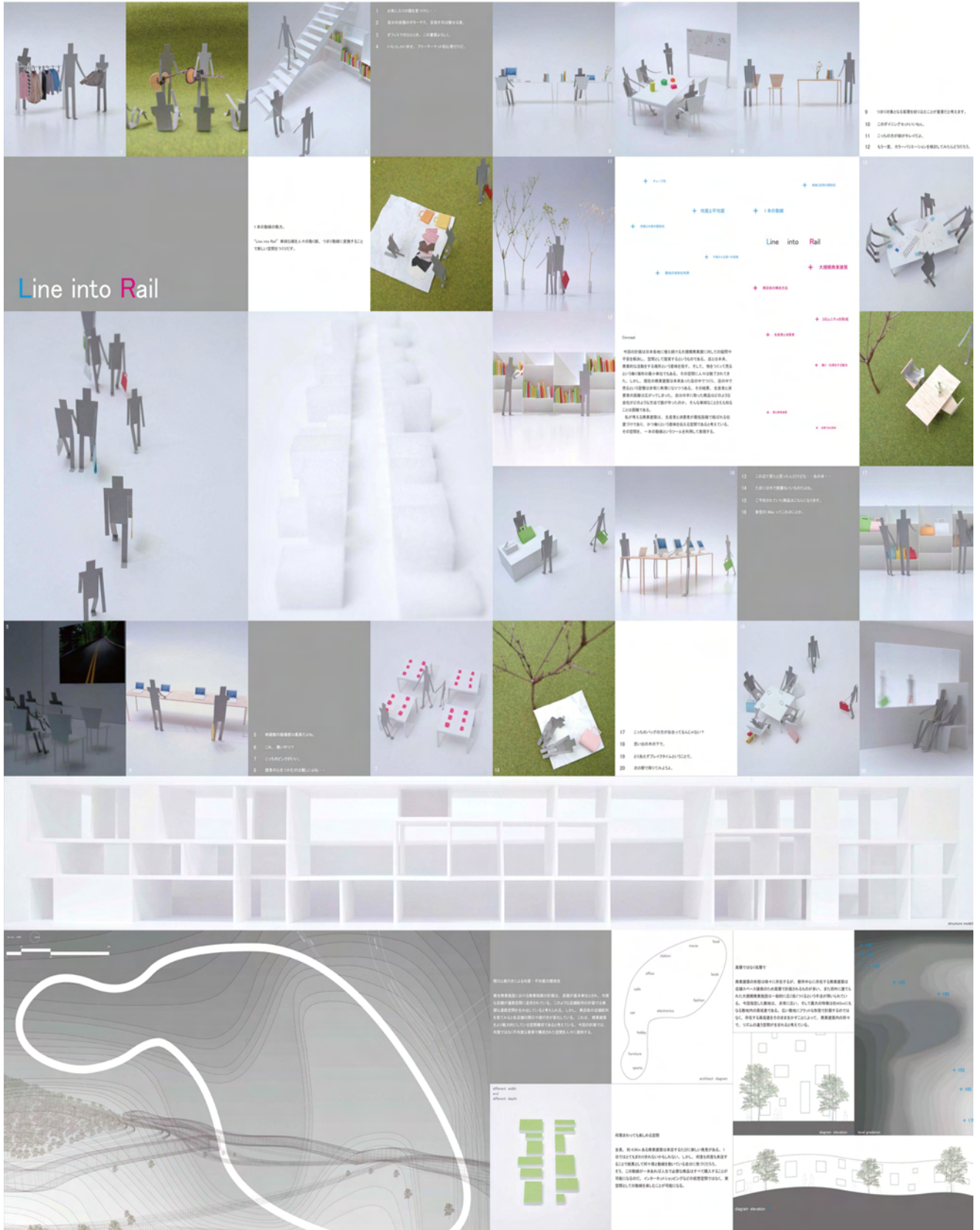


## 12. Line into Rail

朝見 文則  
ASAMI Tomonori  
空間創造研究室

本計画は日本各地に増え続ける大規模商業建築に対する疑問や不安を解決し、一本の動線の魅力を生かした商業空間を提案する。敷地の高低差によって上下するチューブ状の建築は人々にリズムの変化を与え、楽しませる。また、建築内を通過す

るリニアモーターカーは、店舗と駅の新しい関係性を生み出す。同線を単純化することにより、消費者と生産者の距離を縮める。そこには新しいコミュニティが形成され、いつまでも愛され続ける商業建築ができることを期待する。





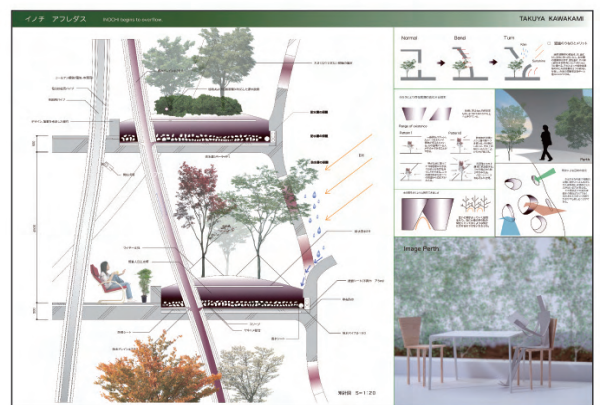
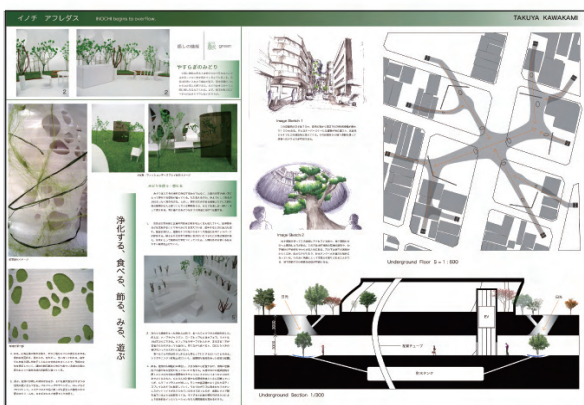
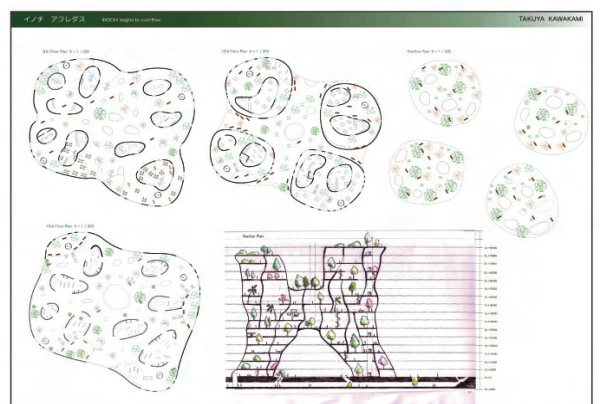
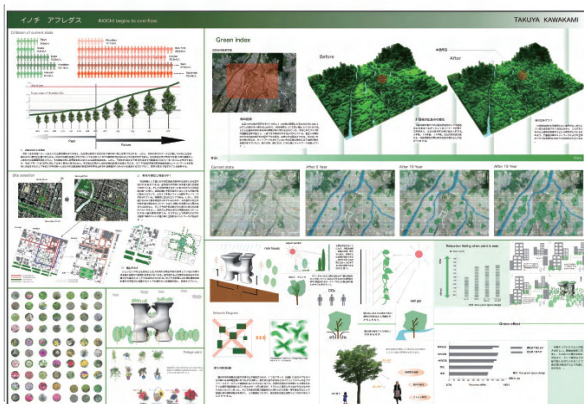
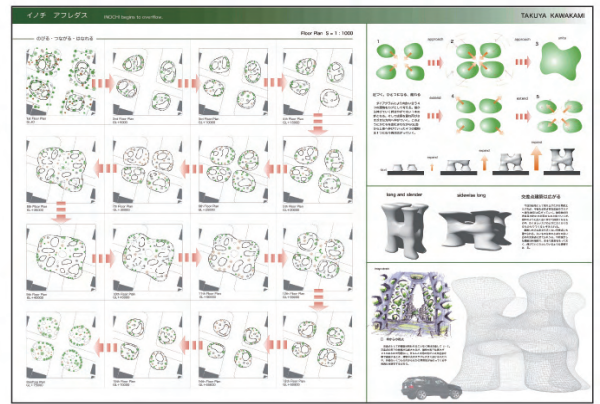
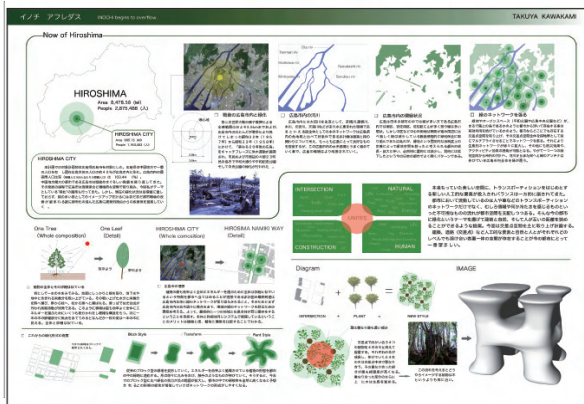
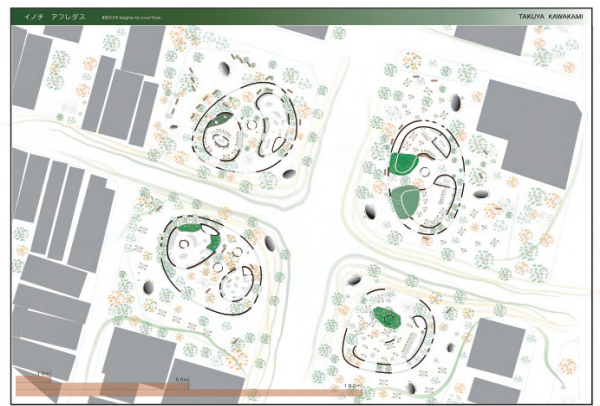


### 13. イノチアフレダス

河上 拓矢  
KAWAKAMI Takuya  
空間創造研究室

『緑化』というテーマを掲げて、広島市の街からイノチのエネルギーがあふれ出すような建築を提案する。  
本計画では交差点全体を緑化する事を目的とする。向かい合う4つの建物を植物である株に例えて設計し、植物の循環システ

ムを建築に取り入れようとしたものである。経年する度に交差点の緑はより濃くなり、街のあらゆる場所の交差点へと増殖を繰り返す。この交差点空間は広島の新たな個性と成ることを期待する。







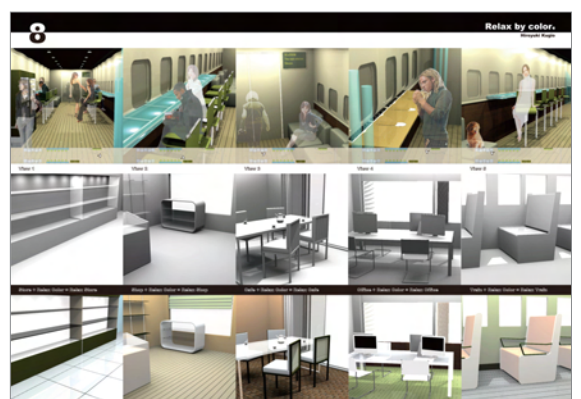
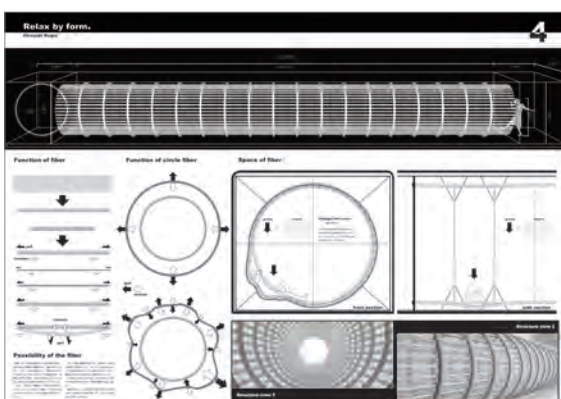
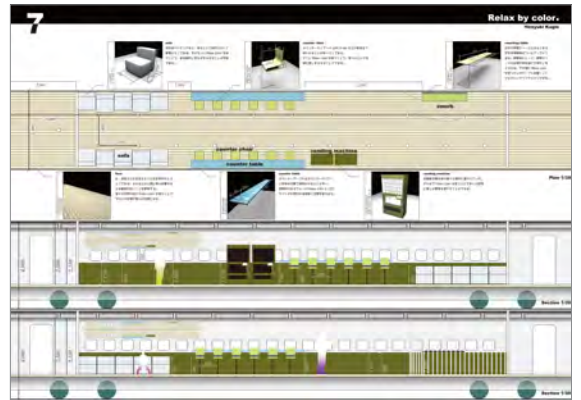
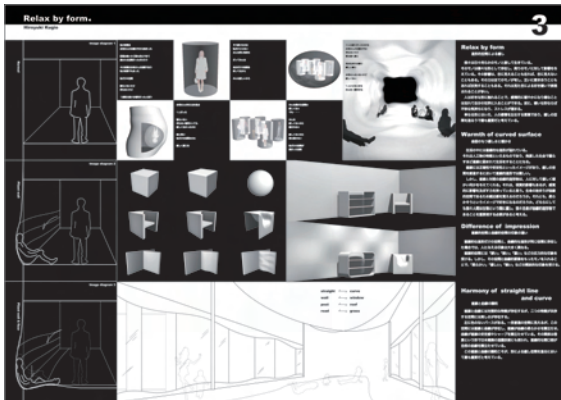
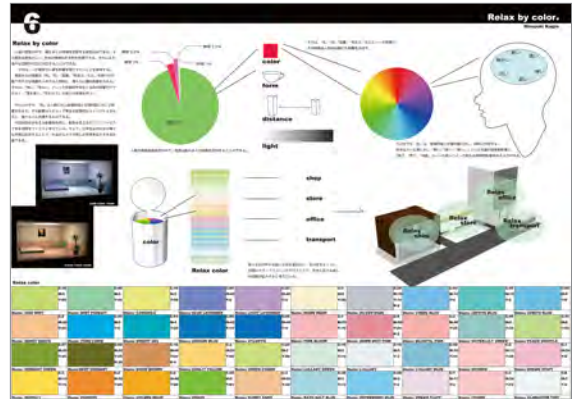
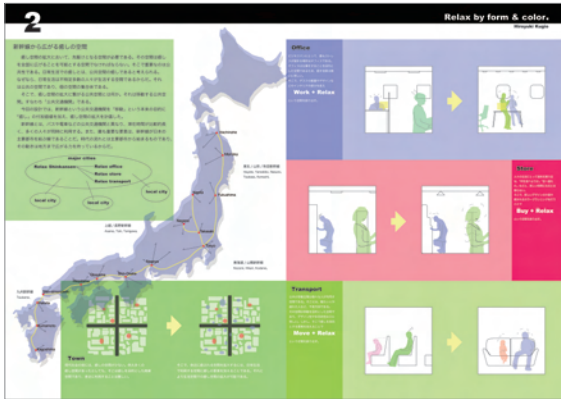
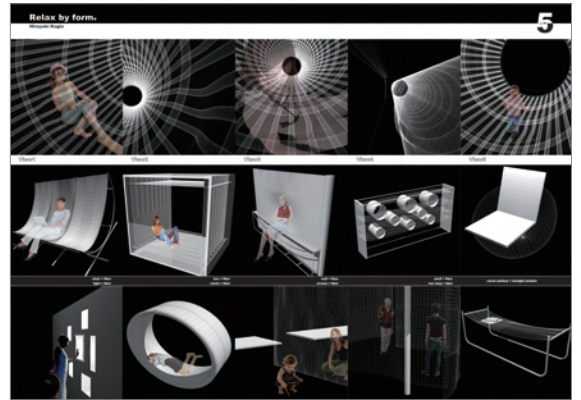
## 14. Relax by form & color

釘尾 裕之  
KUGIO Hiroyuki  
空間創造研究室

インテリアデザイン学会支部長賞

現代社会において、人は何らかの圧力や環境の悪化によりストレスを感じやすくなっている。そこで「癒し」を目的とした空間が多く見られるようになった。しかし、その空間は非日常的空間であり、安易に利用することは難しい。本計画は、現存する

日常空間に造形面や色彩面での心理的な癒しの要素を加えることで、日常生活での癒し空間を拡大するための、先駆けとなる空間であり、拡大に繋がる公共空間として、「新幹線」という公共交通機関を選択したものである。



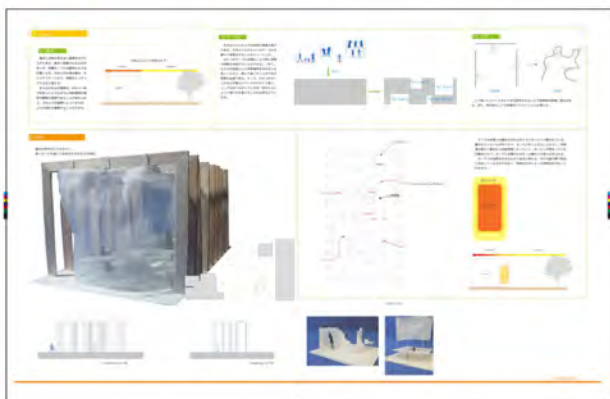
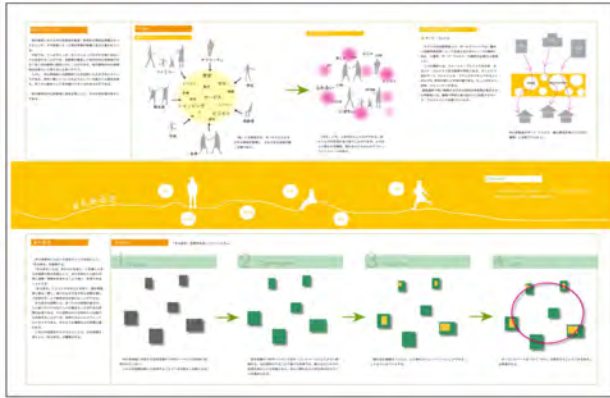


# 15. まち歩き空間

安東 史  
ANDO Aya  
都市計画研究室

地方都市における中心市街地の衰退・空洞化が深刻な問題となっている。本計画では、中心市街地活性化に必要なにぎわいを生むための「まち歩き」空間を提案する。「まち歩き」とは、まちなかを歩くことを通してまちの風景や変化を感じとり、まちを訪

れた人同士が同じ空間・時間を共有することで憩い、交流できるものである。これによって中心市街地を訪れた人々が用事を終えてすぐに帰ってしまうのではなく中心市街地に留まるきっかけとなり、都心で過ごす楽しみになると考える。





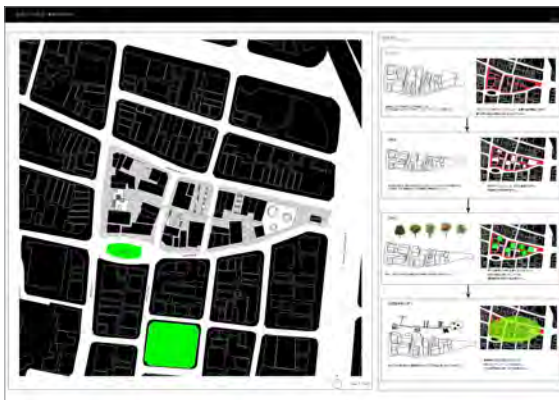
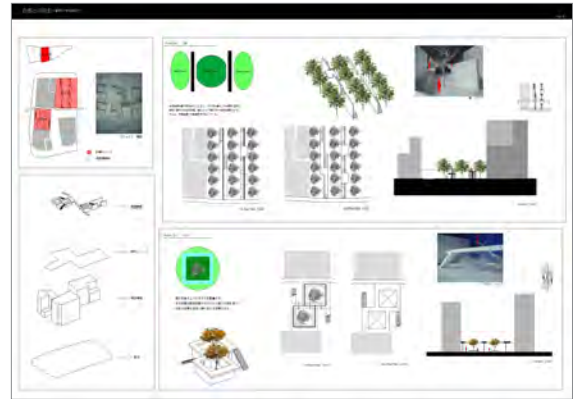
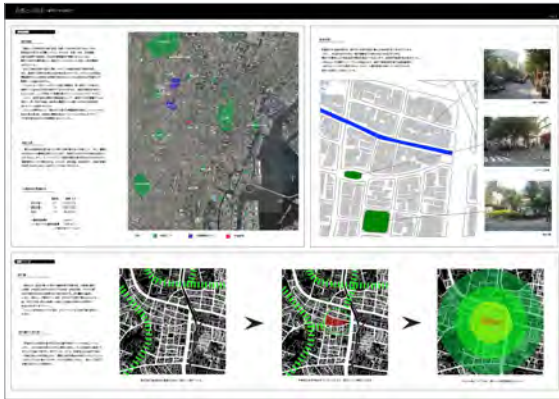
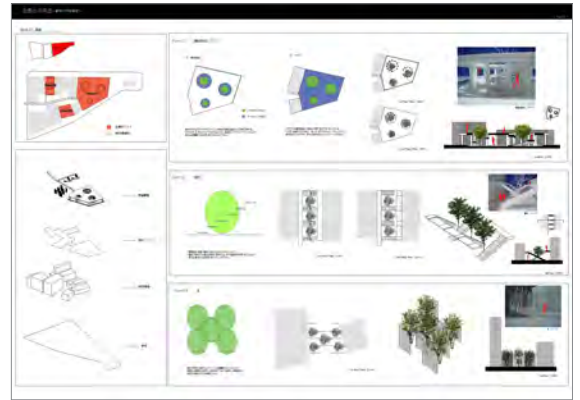


# 16. 自然との共生 ～都市の中の自然～

原田 聖  
HARADA Masato  
都市計画研究室

都市の中で自然と触れ合える自然と都市の共生を目指した空間を提案する。大規模開発の影響により衰退し始めている商店街をモデルケースとし、都市において希薄となった自然との関わりを自然要素である樹木を使い、小さなスペースで緑化し、様々

な建築要素を挿入させ、それらを集合体として形成することにより、本来自然の在り方である自然を眺め、ゆったりした時間を過ごし、触れ合い、変化を楽しめるような自然を近くに感じられる空間となるものを目指す。





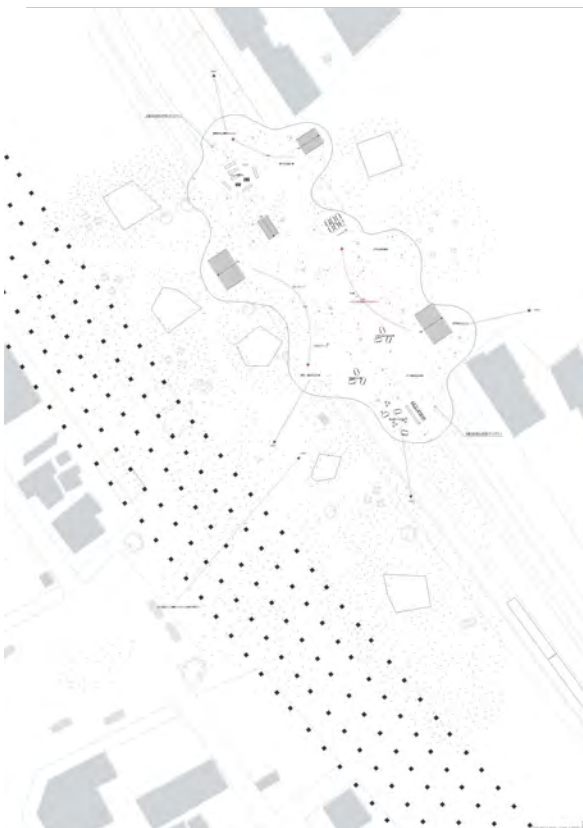
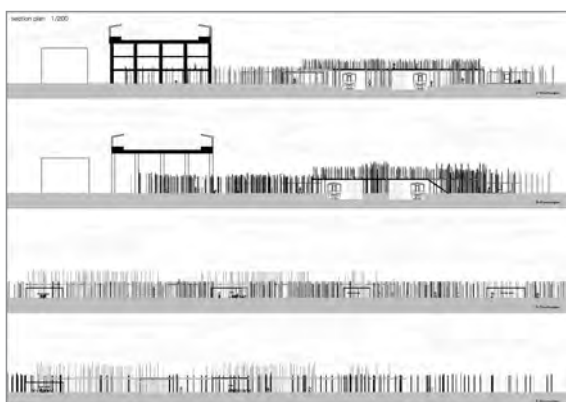
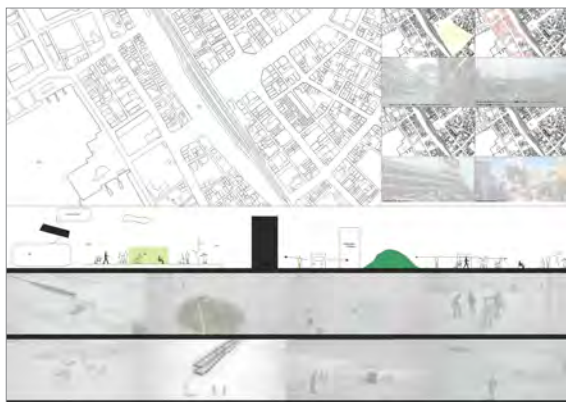
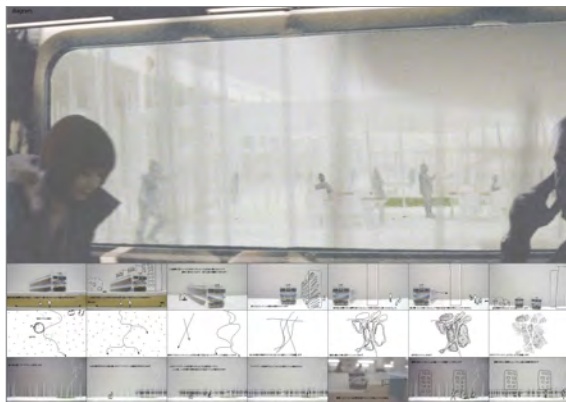


## 17. 森の中を歩く人、木漏れ日の下をゆく電車

岩崎 真達  
IWASAKI Masamichi  
建築歴史研究室

森の中を歩く。真つすぐ歩けない、木が複雑に生い茂りそれを不可能にする。しかし、その中で人は自ら選択し、自分だけの道を探し歩く。木々が並んだ景色の中に花や水、風や光といった小さな表情を探しては小さな幸せを感じる。これが森のはなし。

駅の中を歩く。柱が複雑に生えている中を、人は自分の道を選択し、歩く。都市での生活リズムは壊され自然と歩幅、歩調は小さく、ゆっくりになる。人々の活動が柱の森からあふれだす様子は駅の表情を作っていく。これも森のはなし。



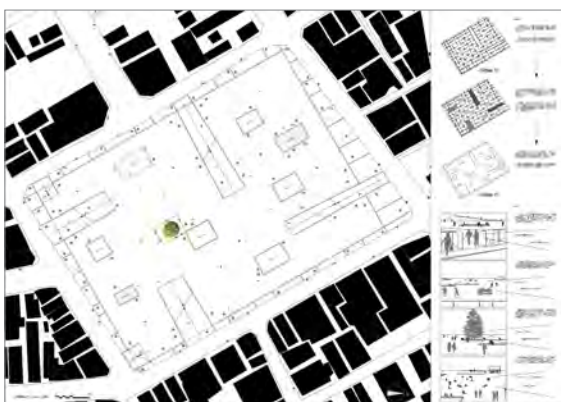
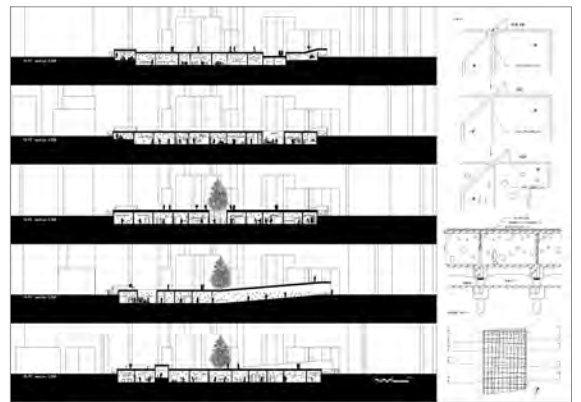
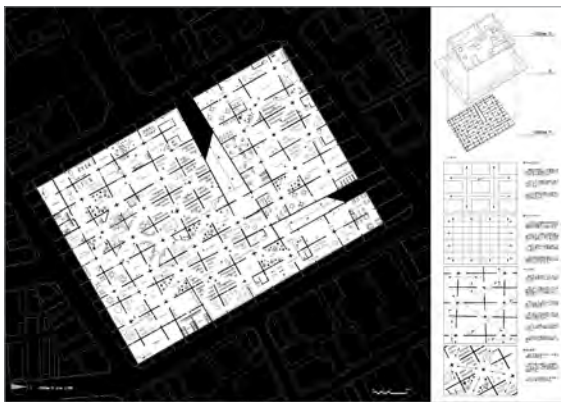
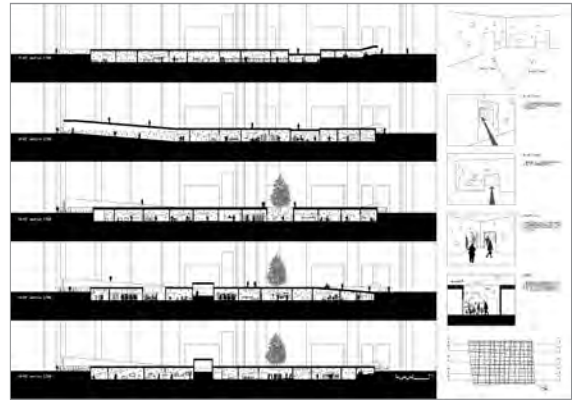
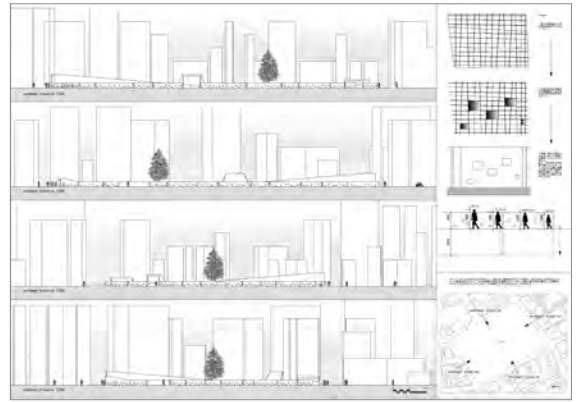


## 18. 天文館公園再考計画

川上 裕司  
KAWAKAMI Yuji  
建築歴史研究室

時代の流れと共に都市開発は進み、現代人にとって便利な場所がつくられていった。しかし今、都市が見直され所々で再開発が行われている。本計画は、九州新幹線開通をきっかけに地方都市として再開発が行われている鹿児島市において、その中心

市街地にある天文館公園の在り方を考え直すものであり、地域の人々に限らず、この場所を訪れる人々にとって価値のある、屋上広場を持った商業複合施設を提案することで、人が集まり暮らしやすい場所として存在していくことを期待する。







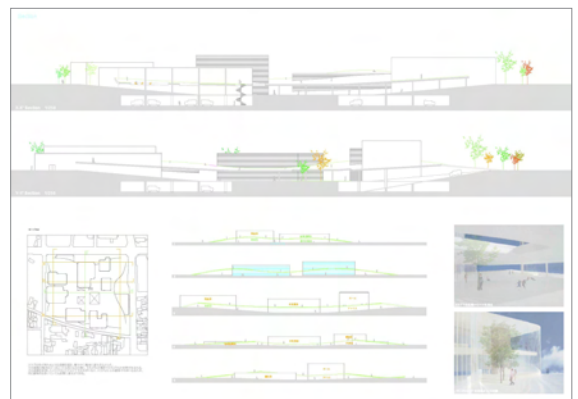
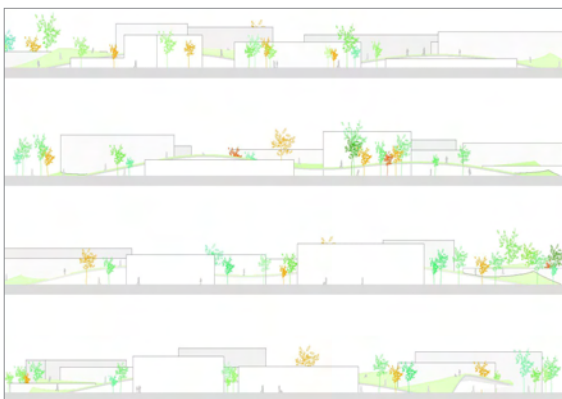
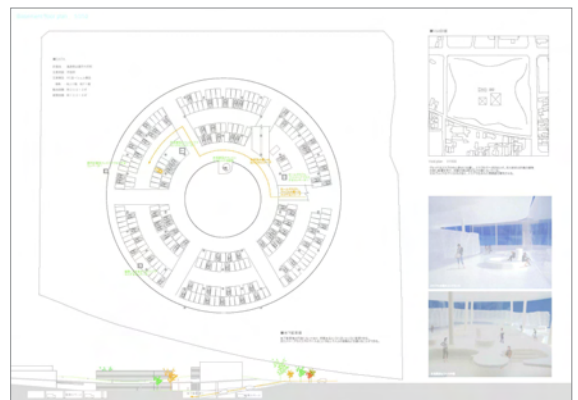
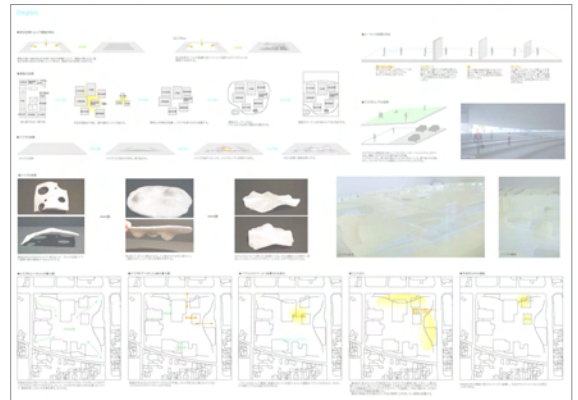
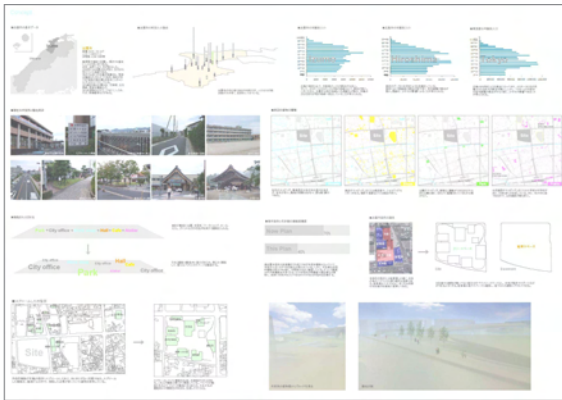
## 19. Join ～新しい公共空間の創造～

西村 知香  
NISHIMURA Chika  
建築歴史研究室

市役所などの公共建築は図書館などの公共建築とは異なり、「公共」であるべきなのに市民に開かれているとは言いづらい。パブリックであるべき公共建築をパブリックに。さらに、「造られたパブリック」ではなく、本計画が媒体となって、人々の中に「自

然発生したパブリック」を目指す。

本計画は、市の心臓部であるにも関わらず、市民との距離は遠く、大きな壁があるように感じられる市役所の透明化を図り、開かれたパブリックスペースとすることを目的としている。





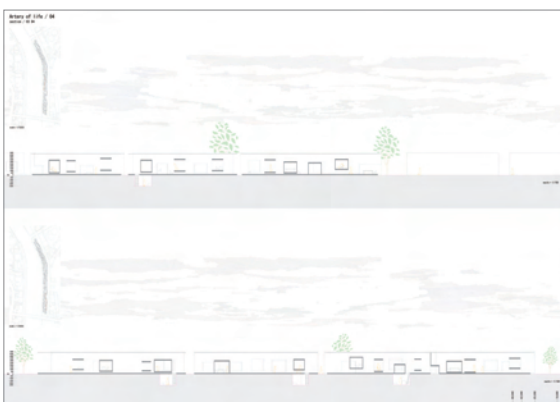
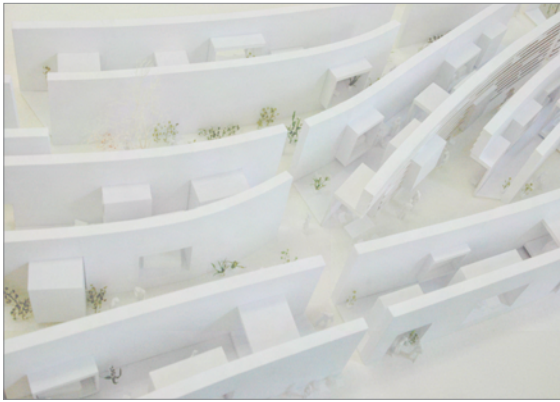
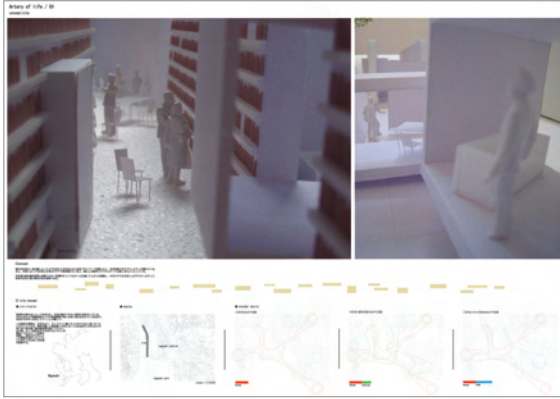


原田 敬大  
HARADA Yoshihiro  
建築歴史研究室

## 20. Artery of life ～狭さ故の心地良さと居場所が与えられる新たなスタイル～

現代の住宅は一枚の壁によって、6方仕切られた完全プライベート空間となり、住宅内部でのアクティビティは薄れている。また、外部においては住宅と住宅のスキマや路地裏がもつ、友人・隣人と交歓を行うプロムナードは既に消えようとしている。

本計画は路地裏的空間と、部屋ではなく居場所をつくり出すハコを通じて人が人を認識し、そのスキマを主体に人がアクティビティに自身の生活と絡むことのできる集合住宅の提案である。



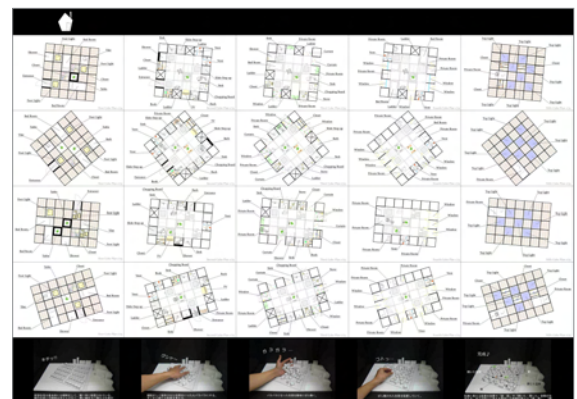
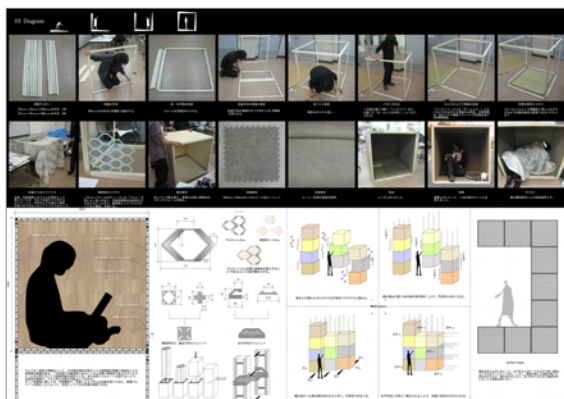
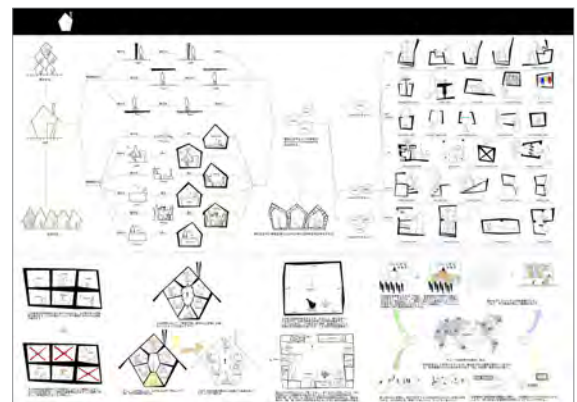
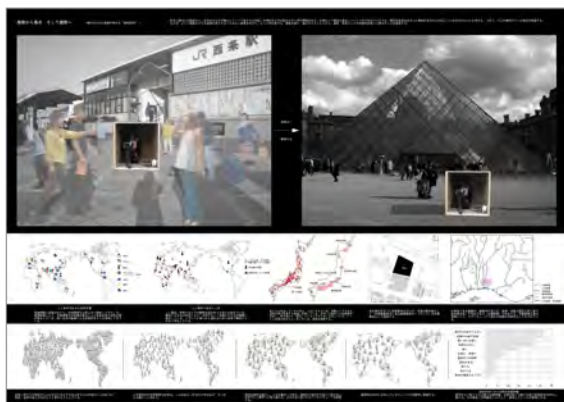


古田 靖幸  
 FURUTA Yasuyuki  
 建築歴史研究室

## 21. 離散から集合そして離散へ ～細分化された建築が魅せる「逆転空間」～

現在の建築は、定まった敷地があるから成立しているのではないかと考える。敷地が変わった建築は以前と比べ魅力は低減してしまう。ならば、どこへ移動させても、価値が変化することのない建築、すなわち仮設の建築を創造する。よって本計画では

建築を縮小、細分化することにより、建築・住宅としての動くコト・廻るコトの可能性を新たに見出すこと共に、現在の仮設建築が抱える問題を払拭する新たな仮設建築を提案する。







三浦 亮  
MIURA Ryo

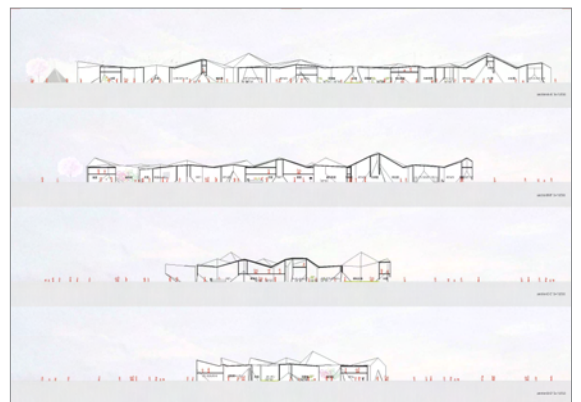
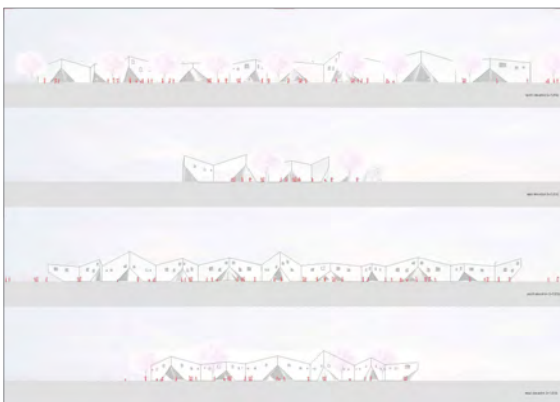
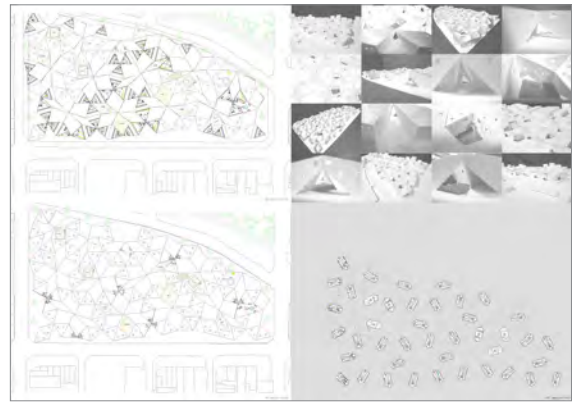
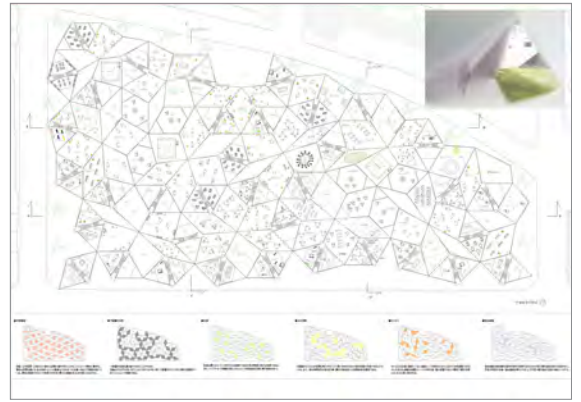
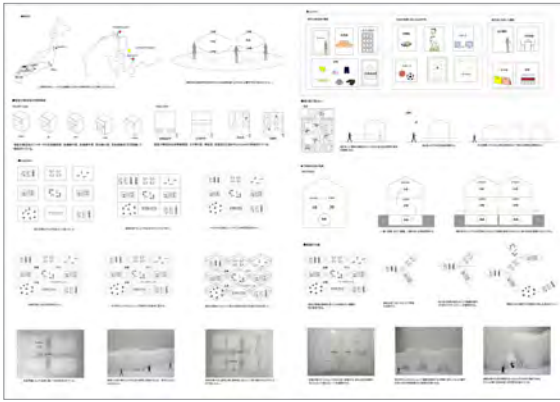
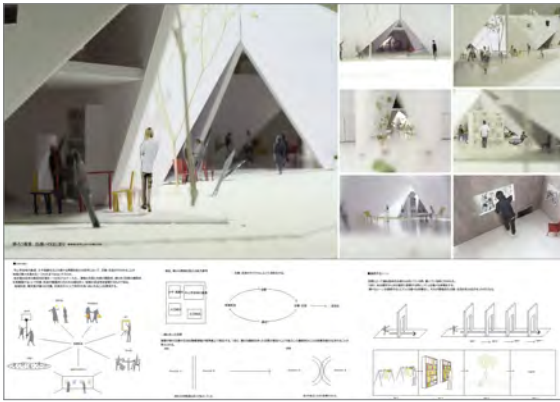
建築歴史研究室

## 22. 移ろう風景、出逢いの始まり ～異領域の境界における交換と交流～

工学会賞 3 席

中心市街地の衰退、少子高齢化などの様々な問題を抱える呉市において、交換・交流が行われることが地域の魅力を高める一つの方法ではないだろうか。本計画は呉市の商店街区域を一つのモデルケースとし、建物と外部と内部の関係性、隣り合う

空間の関係性を再構築することで交換・交流が積極的に行われる場を作り、地域の再活性を提案するものである。地域住民、観光客が様々な交換、交流を行うことで呉市が良い街になることを期待する。





## 23. 散らばるおもちゃ 集まるこども ～子どもたちの新しい放課後の過ごし方～

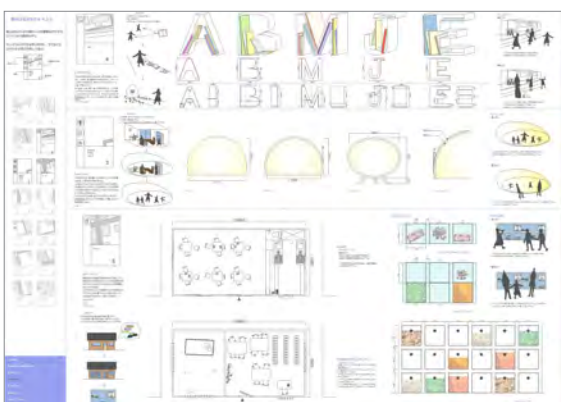
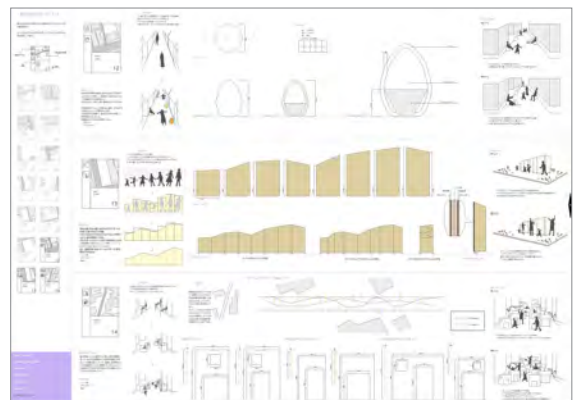
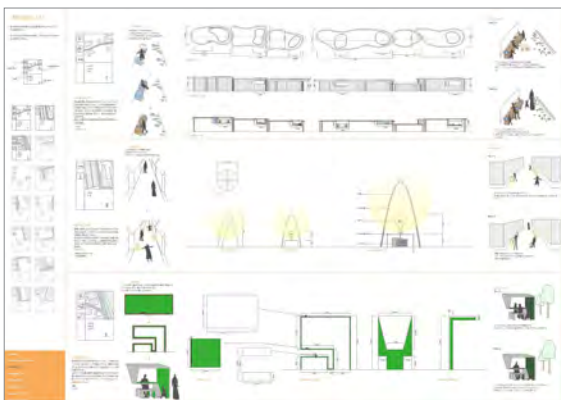
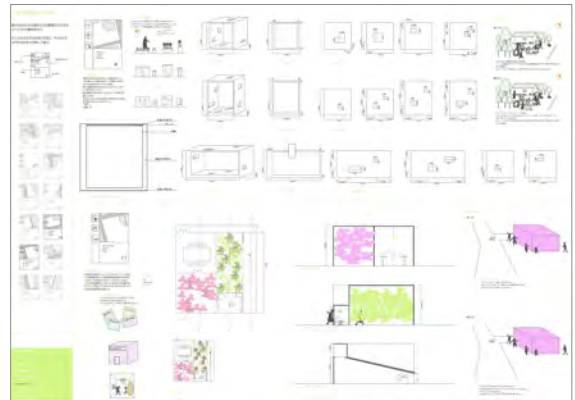
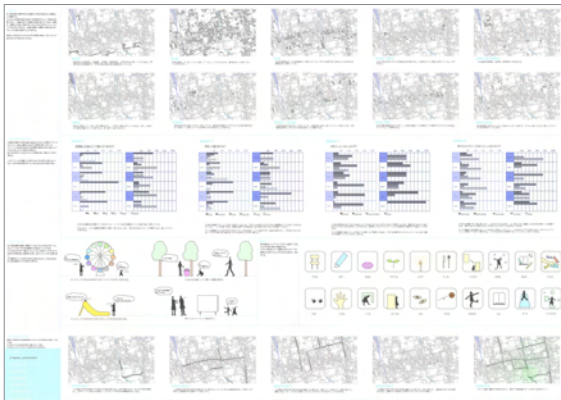
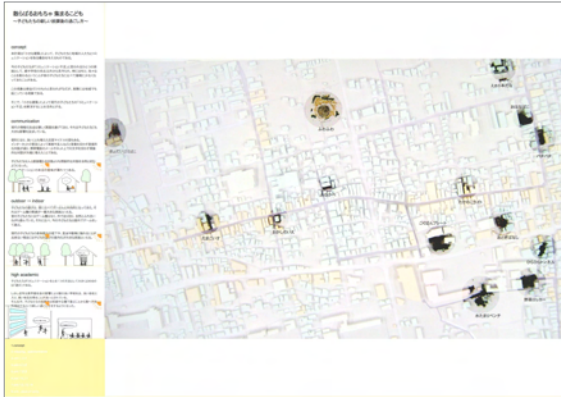
宮脇 麻容  
MIYAWAKI Mai  
建築歴史研究室

本計画は「小さな建築」によって、子どもたちに地域の人たちとコミュニケーションを取る機会を与えるものである。

今の子どもたちが「コミュニケーション不足」と言われるひとつの原因として、親や学校の先生以外から見守られ、時には叱

り、色々なことを教わるということが昔の子どもたちに比べて極端に少なくなってきたことがある。

そこで、「小さな建築」によって現代の子どもたちの「コミュニケーション不足」を解消することを目的とする。









# 01. 都市の crack

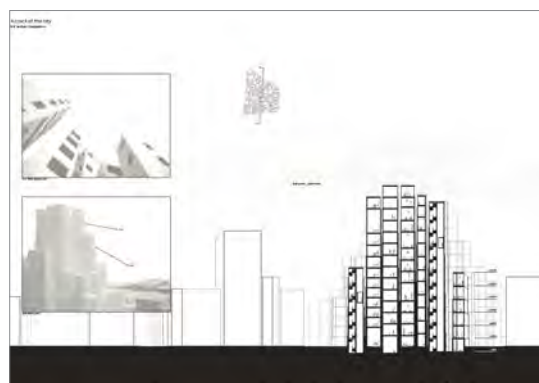
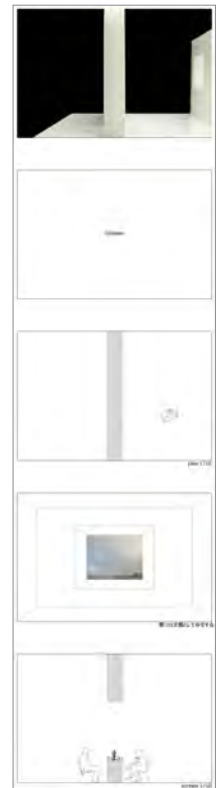
泉 秀紀  
IZUMI Hidenori  
建築意匠研究室

本計画は、建築における「壁」を、空間に境界をつくり、閉じるための要素としてではなく、空間相互を繋ぐものとして捉え、現代の高密度化する都市居住において、中間体、媒体としての壁の可能性を見出すことを目的とした計画である。

これまでの集合住宅の多くはプライバシーの確保に配慮するあまり、完全に独立

した「個」が複数集まっただけのものであるが、近年においてはもはや集まって住むことの意味は失われている。

そこで、様々な厚みをもつ壁によって多様な空間の関係性を生み出すことで、現代の都市居住者の多様化する住まい方、複雑化する人間関係を許容する集合住宅を計画する。







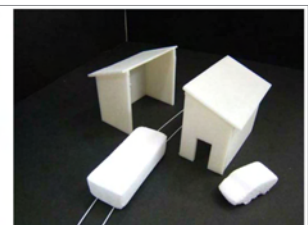
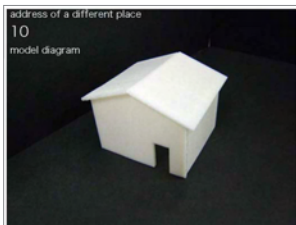
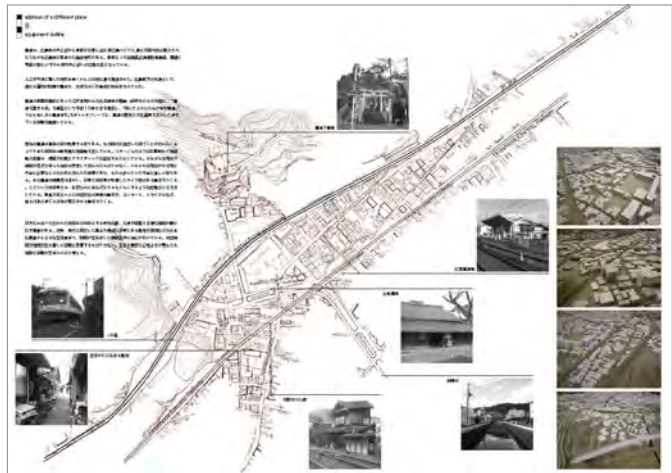
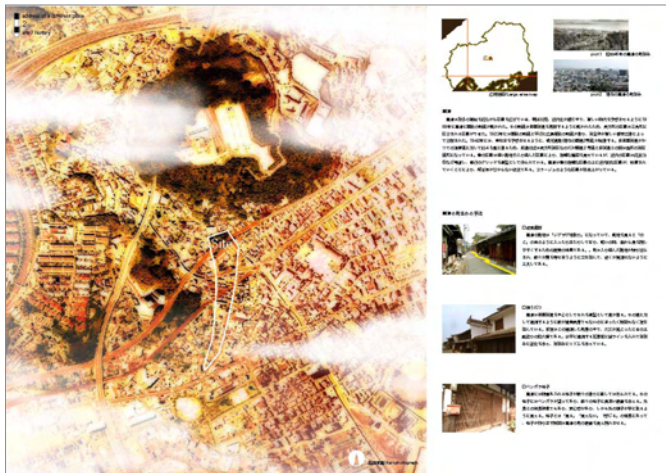


## 02. 異場所の居場所

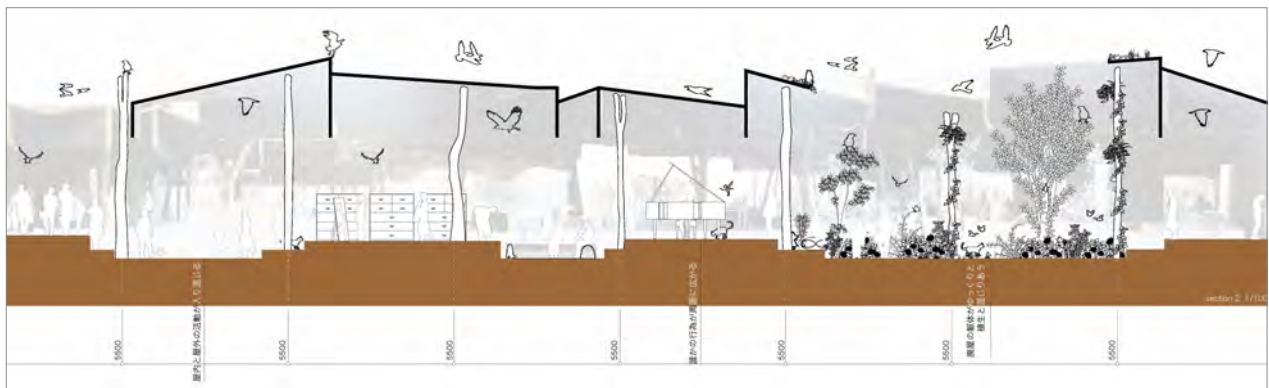
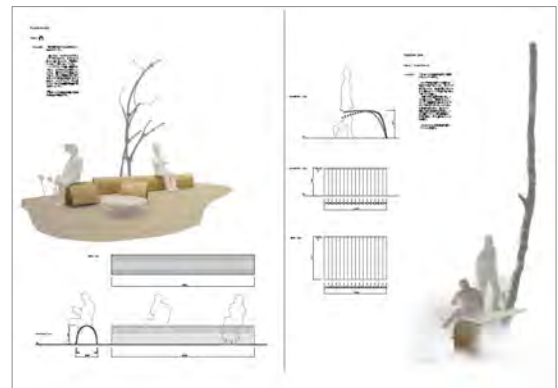
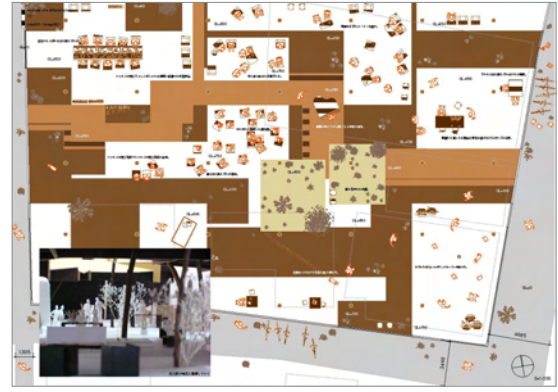
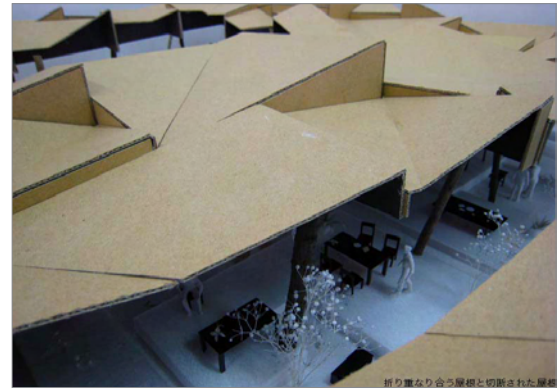
小谷 征史  
KOTANI Masafumi  
建築意匠研究室

境界の錯覚、見えの行き来、連続と不連続、既存と新規、認知と錯覚、明るさと暗さなどによって、人にたくさんの疑問を作る。その疑問は人に空間を解釈する余地を与える。その疑問を抱きながら、たくさんのライブ感と遭遇する。意図的でありながら、見通せない群生体は不安と期待を伴いながら、習慣化された生活に驚きをもたら

してくれる。劇場のような立派に立ち上がるような建築ではなく、それはまるである日突然街が劇場になってしまったかのような環境を作り出し、そこでの生活を通して、人々が振る舞いや経験を共有することによって、草津の歴史が途切れることなく紡いでいくことを期待する。









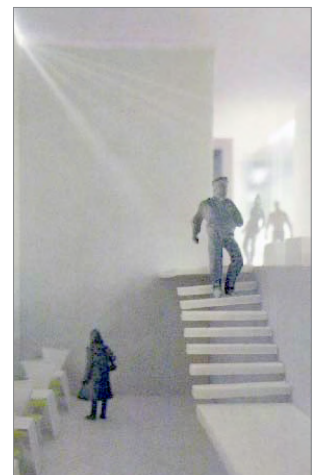
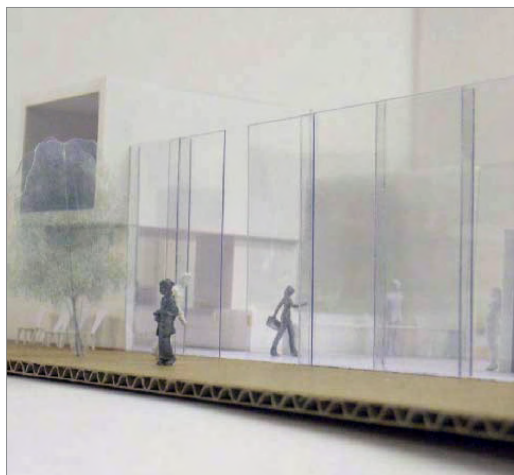
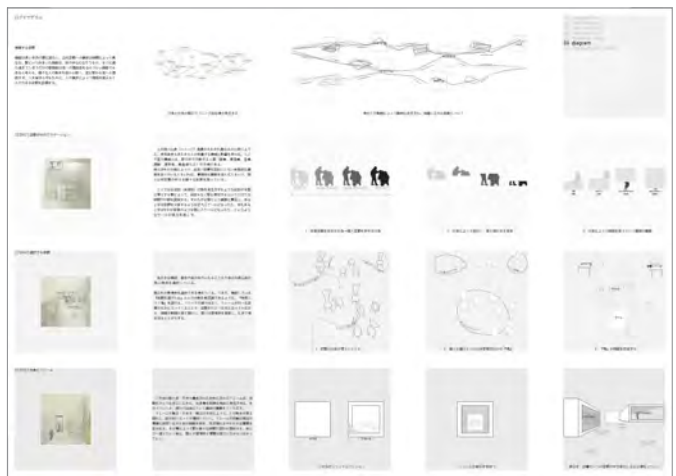
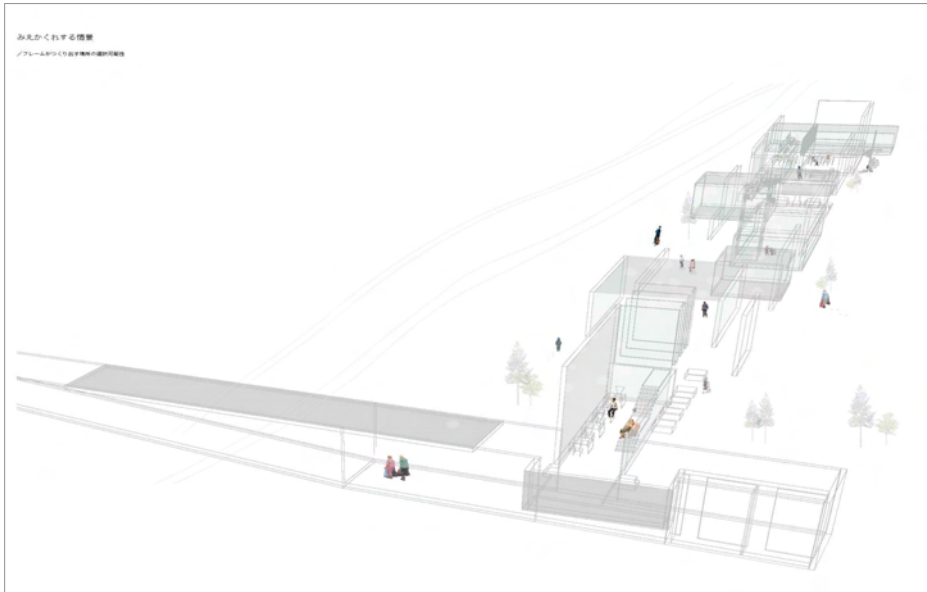
### 03. 見えかくれする情景

佐々木 智子  
SASAKI Tomoko  
建築意匠研究室

木立の中の木漏れ日のような、あるいは万華鏡のような、きらきらと映りこんでは消えていく、儚い空間が作りたい。

公の場所に個人の居場所をつくるために、フレームのもつ独自の形態と視線の見え隠れに着目する。長い

駅の回廊の中に様々な奥行きをもったフレームが飛び出すことによって、人の行為や視線によってのみ空間が作られていく。街という不確かだめまぐるしい状況において、個人は自分の居場所を公共のなかで選びとることができる。









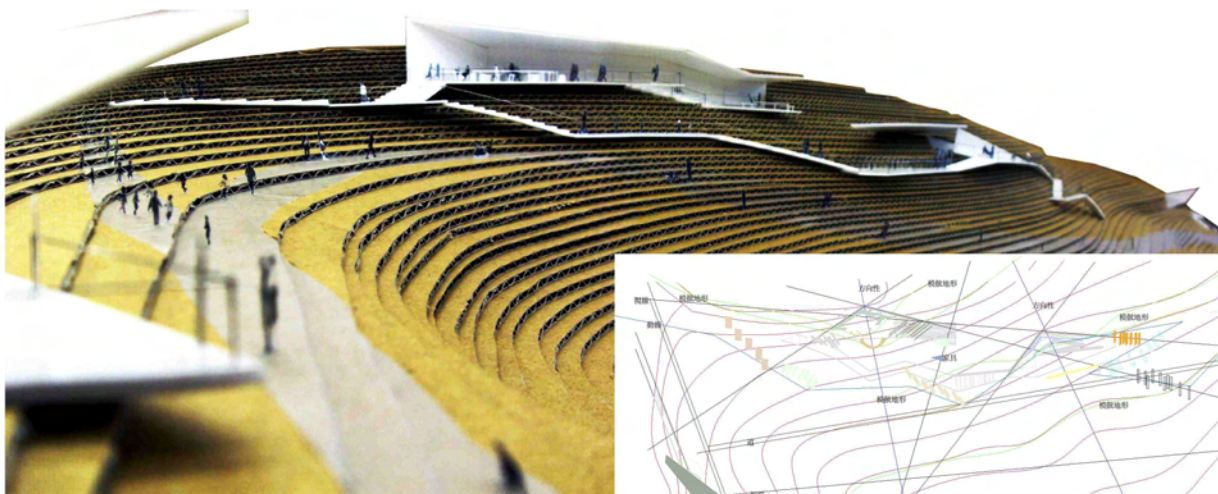
## 04. 線の形態

田中 由佳里  
TANAKA Yukari

建築意匠研究室

地形の形態とそれに沿う動線、その地形に向かう視線のそれぞれは各地域の特徴であると考え、それから成る空間は地域の特性を持つものと仮定し、「ここでしかありえない建築」を提案する。東広島市北部の宇山地区は高低差の目立つ地域であり、地形に沿った集落空間が特徴である。この地形の形は集落全体の大きな要素となってお

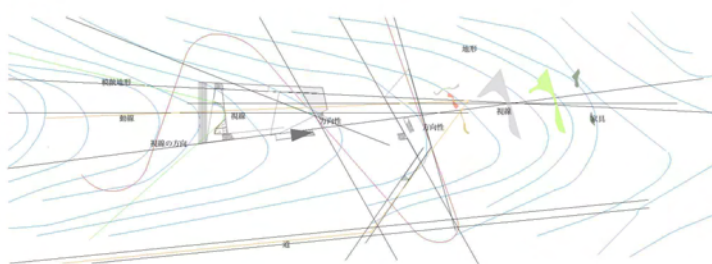
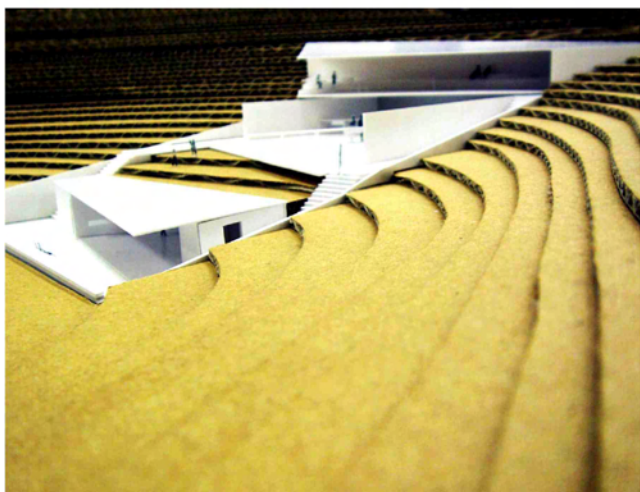
り、この自然要素と人の動き（動線）、風景に向かう視点とそこからの視線の「線」要素の組み合わせはこの地域の特徴になりえるものだと考える。本計画は、地域活性化を目的に、自然要素に動線と視点が融合した空間を地域の特性として活かすものであり、「さわやか茶屋」を中心に配置した、体験型観光施設である。



学校坂 — 動線と視線からなる空間構成、地形と方向性を模倣した家具のダイアグラム

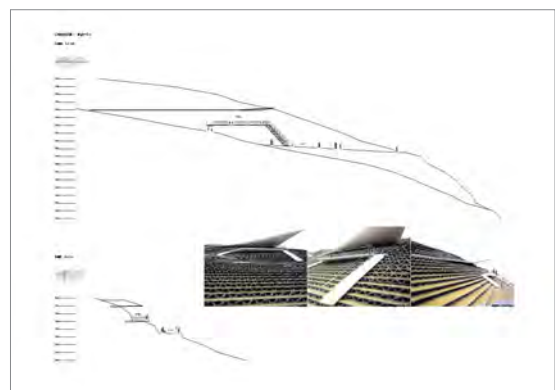
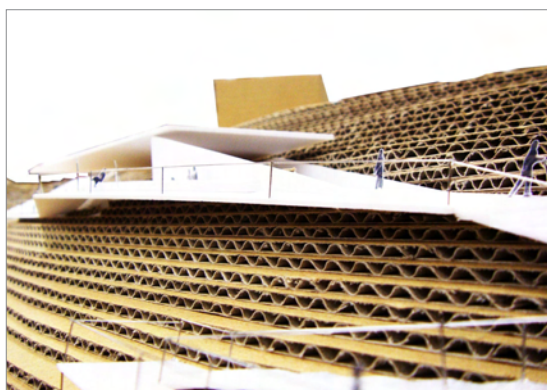
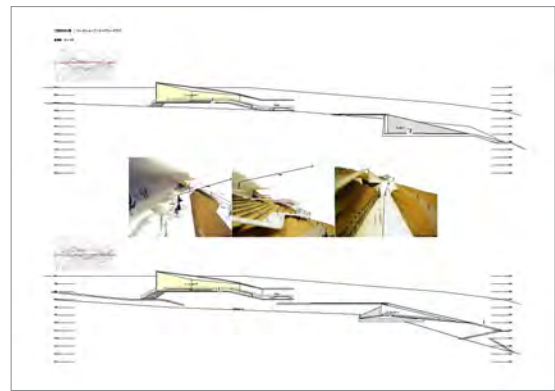
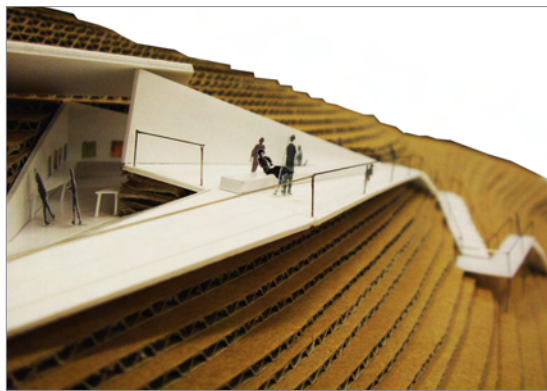
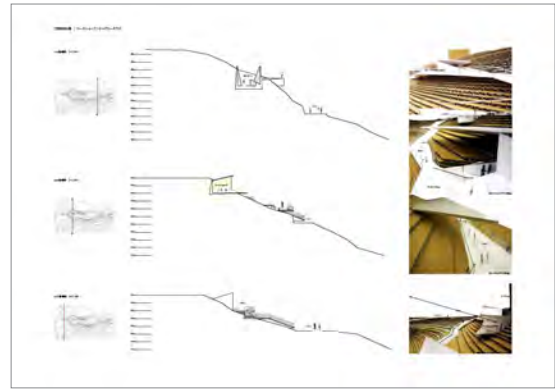
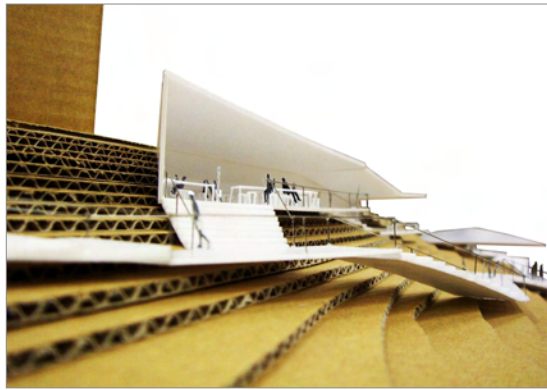
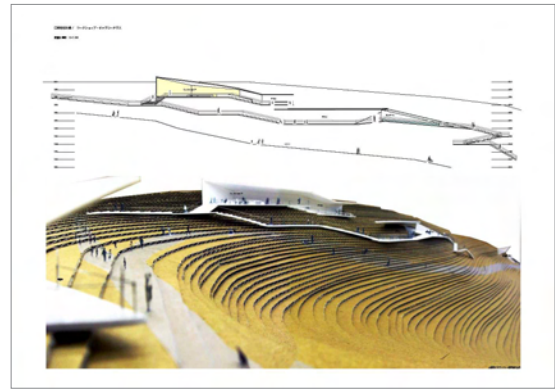
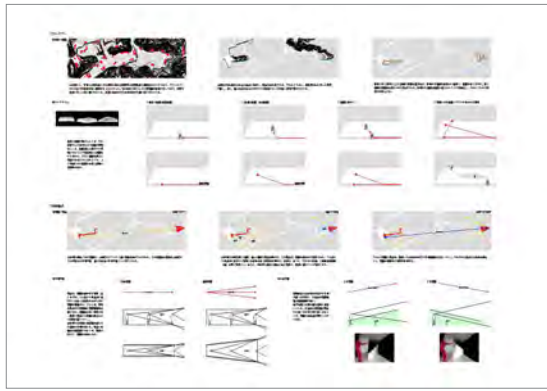
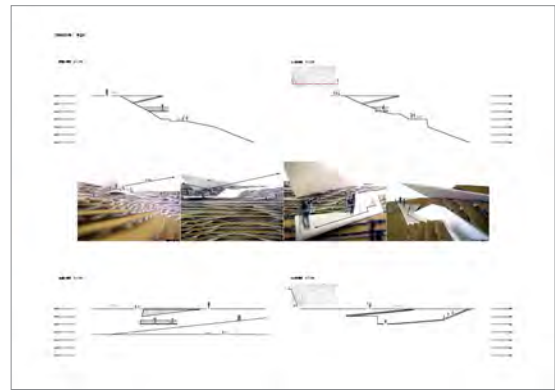


全体配置図



扇 — 動線と視線からなる空間構成、地形と方向性を模倣した家具のダイアグラム





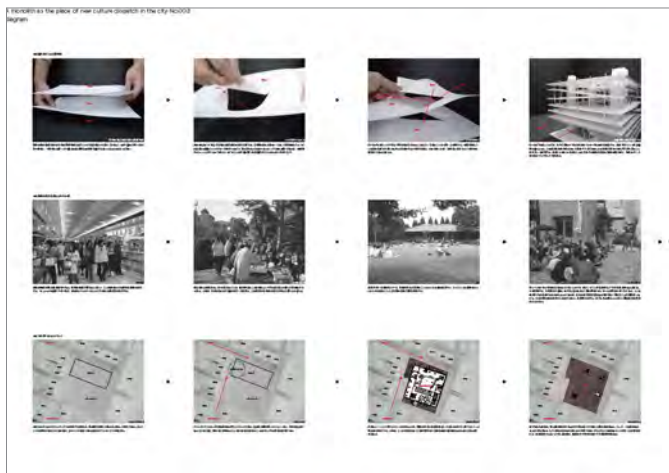
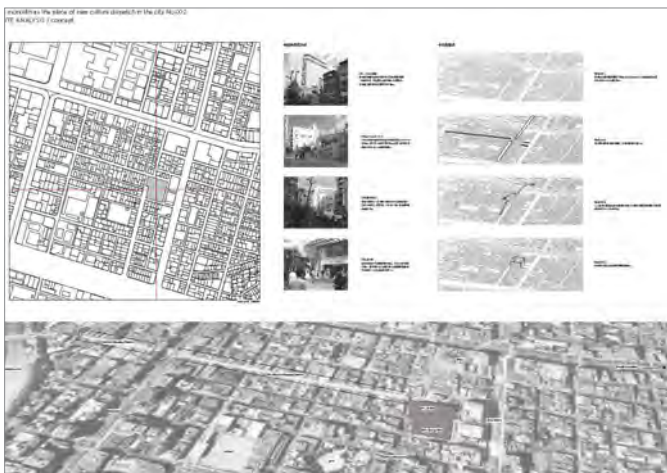
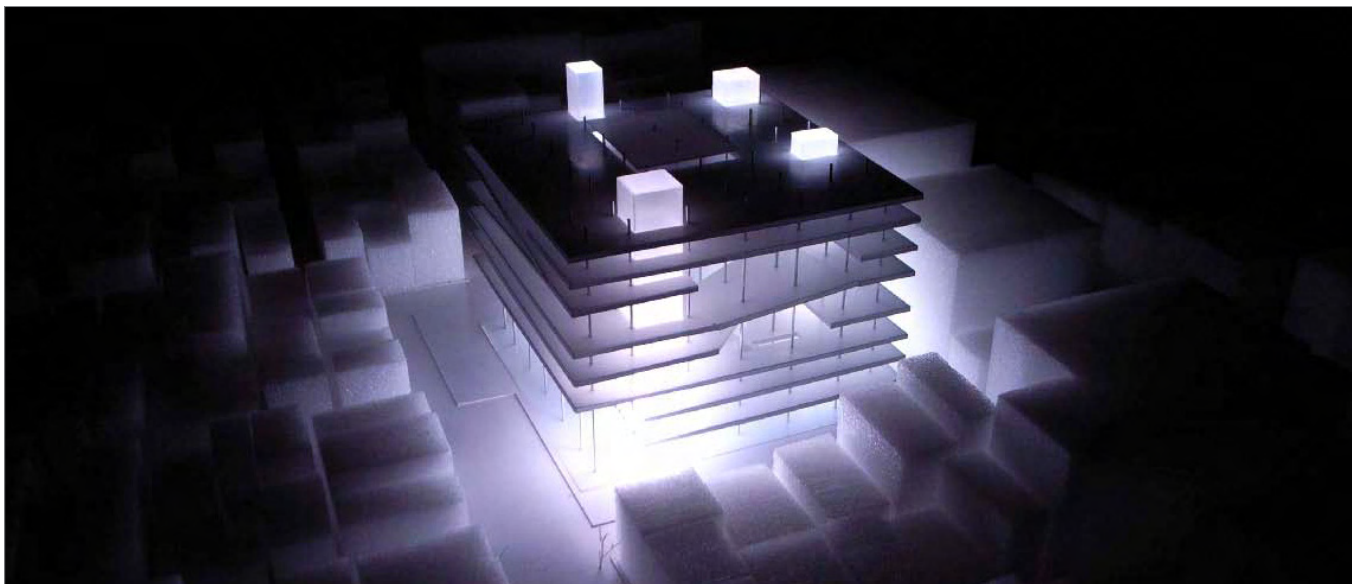


橋本 雅尊  
HASHIMOTO Masataka  
建築意匠研究室

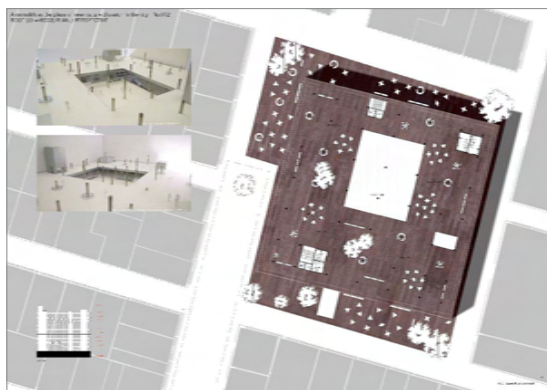
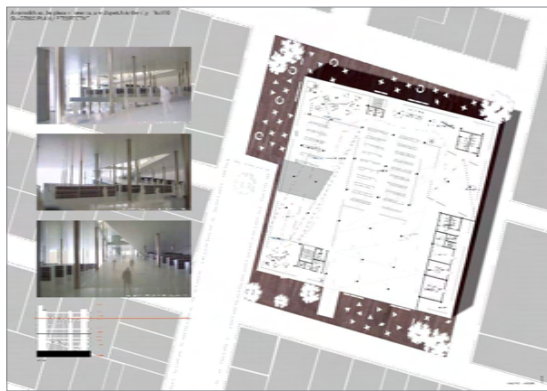
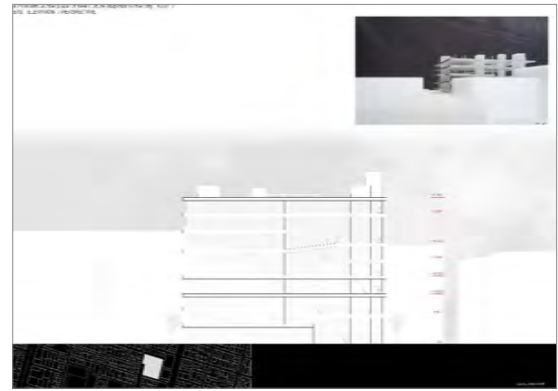
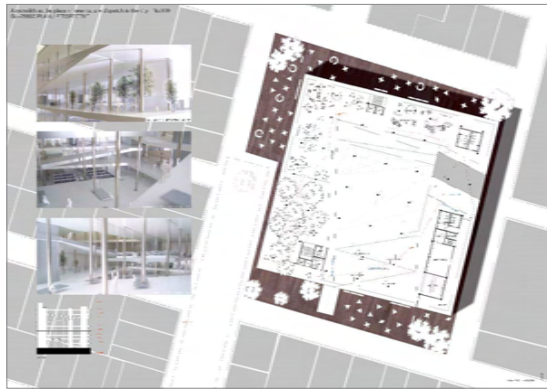
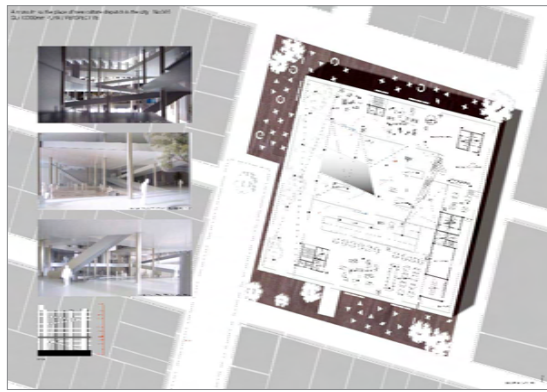
## 05. 都市における新たな文化発信の場としてのモノリス

情報技術の発達は、いつでも瞬時に欲しい情報を欲しいだけ手に入れることを可能にした。その影響が最も顕著に表れているのは商業分野であり、今や商業建築の存在意義が問われる時代にあるのではないだろうか。本計画は、無数に存在する商業

建築の中でも大規模な複合商業建築に焦点を当て、かつての利益追求の結果生まれた空間構成から、買う人と買わない人の両者が商業空間というフィルターを通して新たな文化発信の場となる建築を創出するものである。







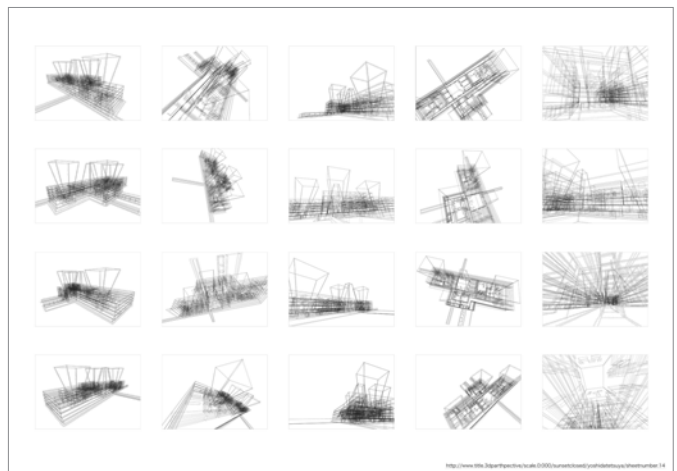
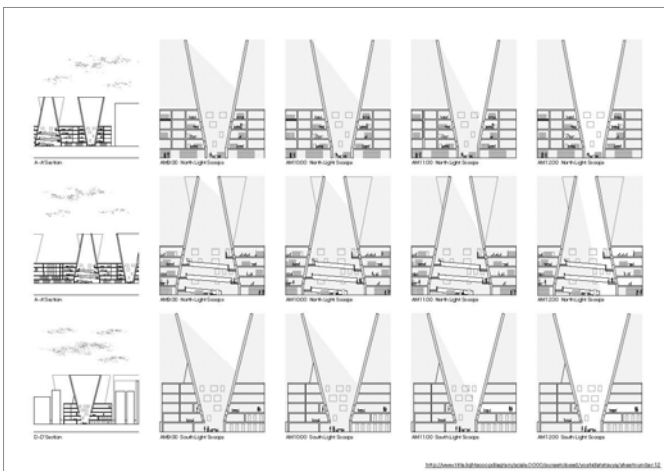
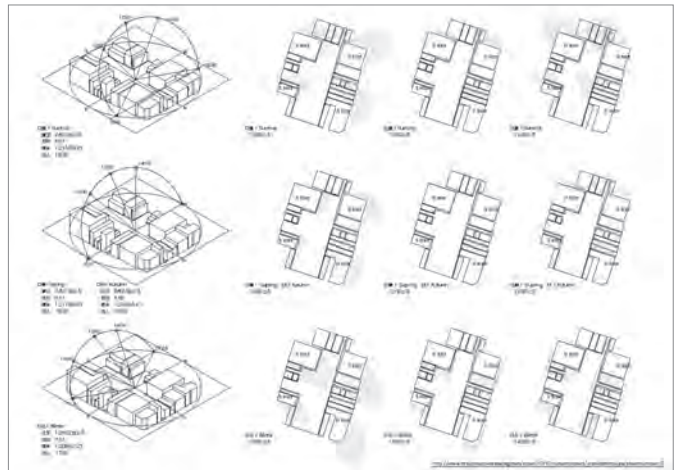
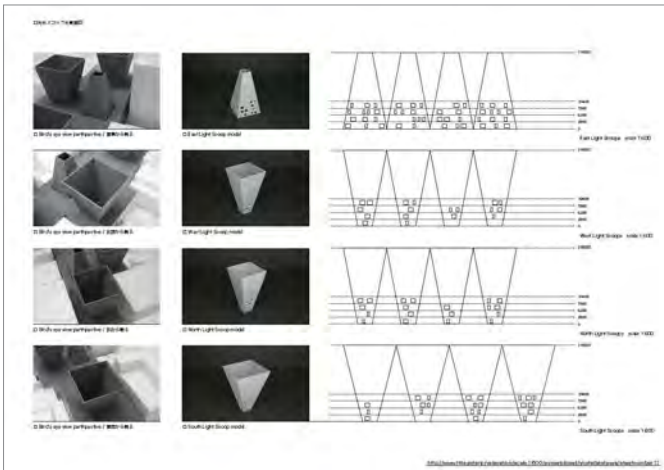
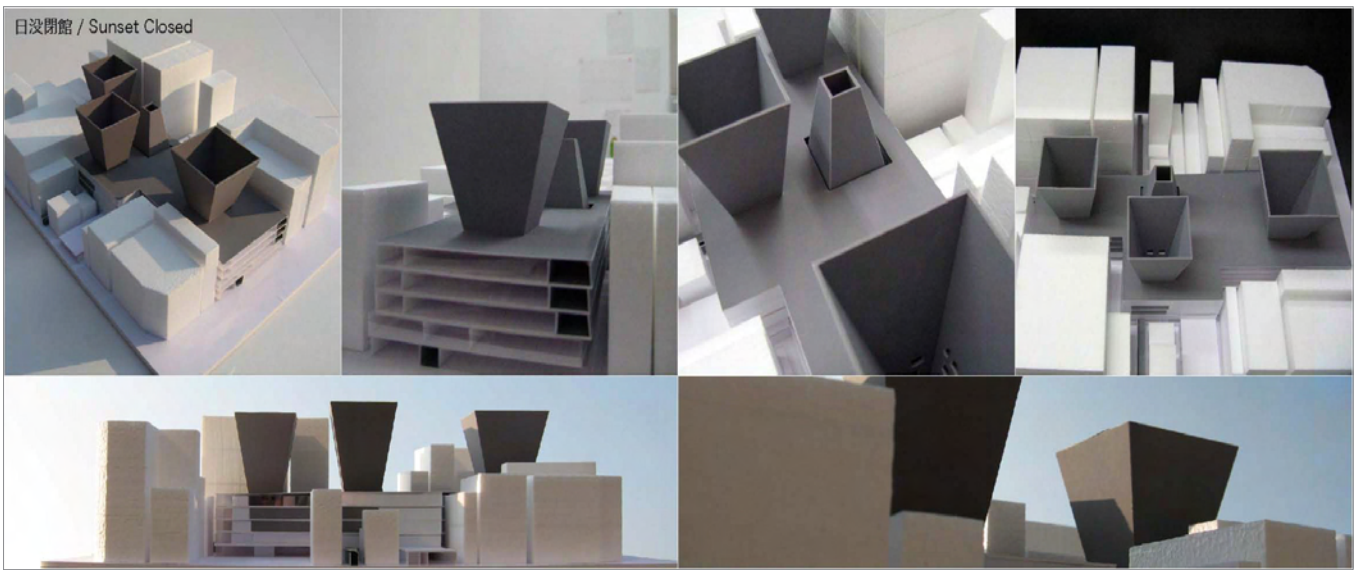


## 06. 日没閉館

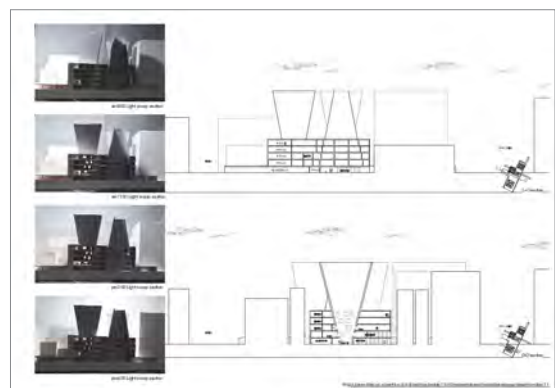
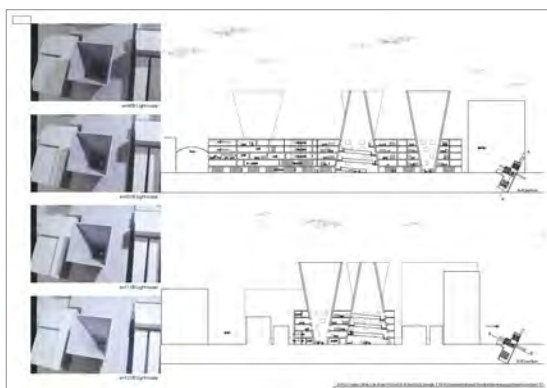
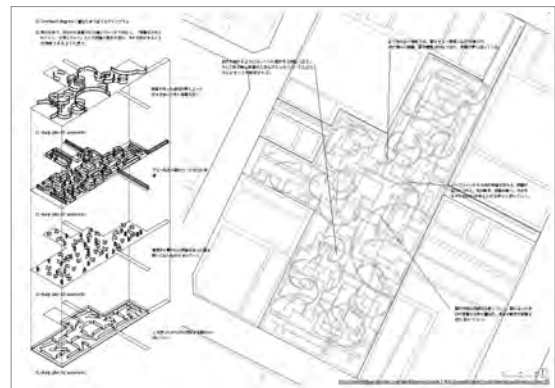
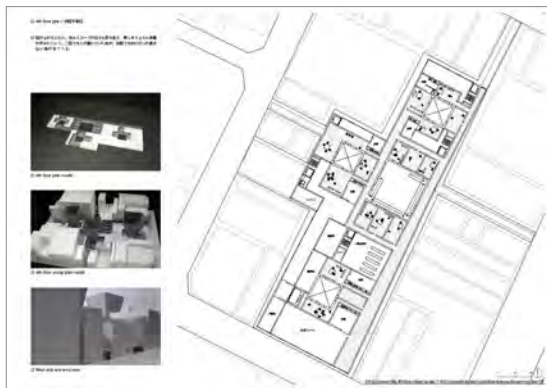
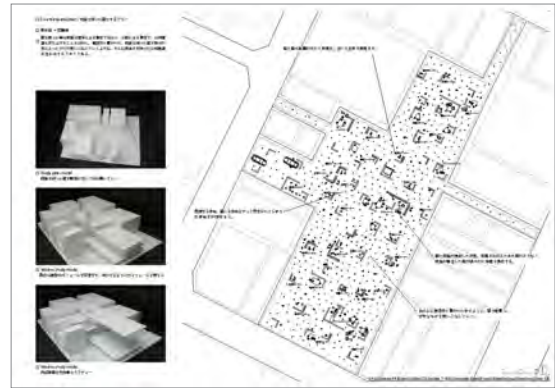
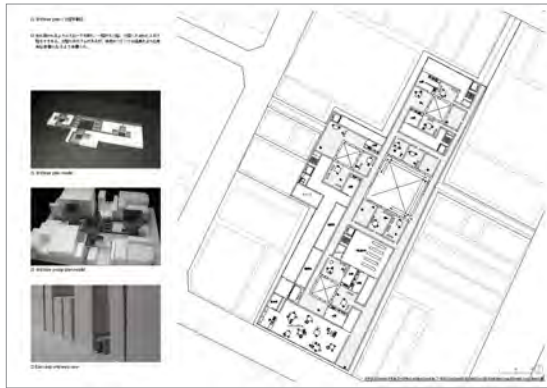
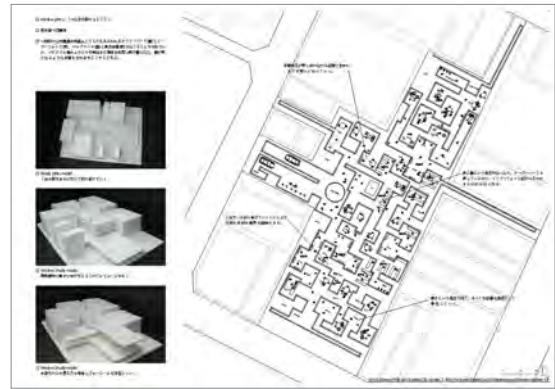
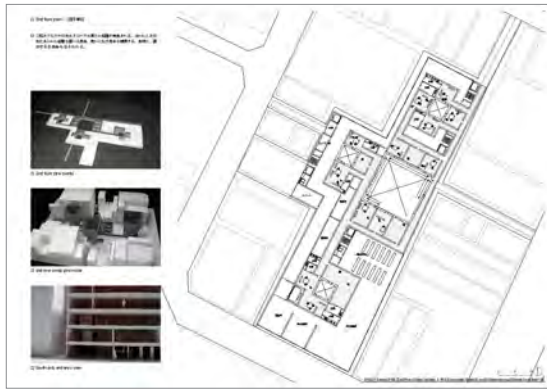
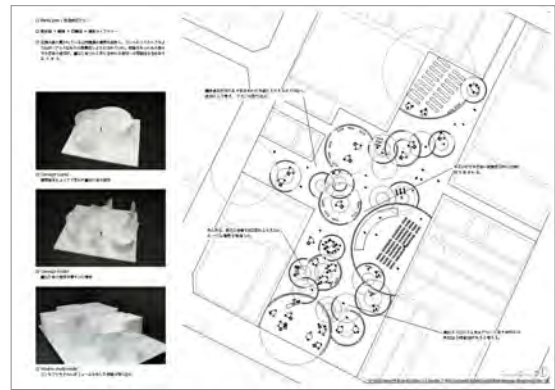
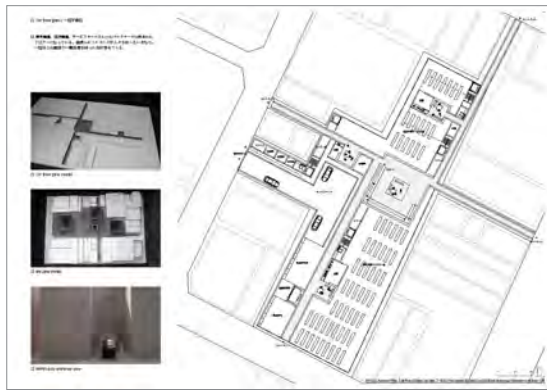
吉田 哲也  
YOSHIDA Tetsuya  
建築意匠研究室

「公共建築は死んだ」。この言葉には、バブル経済の時代とその余波の残っていた数年間に建設されすぎ飽和状態になった日本では、公共建築というアーキタイプはこの先なくなるのではないかと、という意味が込められている。この意味が本計画のきっかけであり、いままでの公共建築というアーキタイプにかわる公共建築、今の時代に

あった公共建築、今一度公共建築の姿、可能性を再考し、明らかにする必要性を感じた。本計画は、空間の成立になくはならない「光」を、これまでの公共建築にみられる均質空間に強弱を与え、機能にも強弱を与えるものとして、現代的「光」の価値を見出すものである。







## 2007 年度 近畿大学工学部建築学科作品集

---

---

平成 20 年 (2008 年) 5 月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科  
〒 739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺 1  
tel 082-434-7000 fax 082-434-7011  
<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/index.html>  
編集 三木康嵩・原田聖  
印刷・製本 三原プリント株式会社

---

本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。

Copyright (C) Kinki University, All Rights Reserved, 2008